基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	学部の学科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジン オオヨドガクエン 学校法人大淀学園									
フリガナ大学の名称	ミヤザキサンギョウケイエイダイガク 宮崎産業経営大学									
大学本部の位置	宮崎県宮崎市古城町丸尾100番地									
大学の目的	<p>学術の中心として広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、大淀学園の建学の精神にのっとり、個性豊かにして知的教養をもった有能な人材を育成し、もって文化の創造発展と、社会・人類の福祉に貢献すること</p>									
新設学部等の目的	<p>ア エコノデータサイエンス学科では、経済現象の理解と予測の向上や効率的な政策立案の支援、リスク管理、新しいビジネスモデル創造そして社会問題の解決に際してデータサイエンス分野と連動させる、まさに経済とデータサイエンス分野の文理融合によって未来を想像できる人材の育成を目指す。実践経済コースでは経済学の基本や応用を学び、経営戦略や政策立案に対応できる人材を育成、データサイエンスコースではデータ分析と経営・経済学を融合し、データから価値ある情報を創出する人材の育成を目指す。</p> <p>イ 実践経済コースでは、市場メカニズムを理解し、独自性を発揮できる「考える力の醸成」、ゲーム理論や行動経済学を学び、さらにDXと連携させる最先端の実践的経済学の習得、環境経済や公共政策を学んだ国際人の育成を行う。データサイエンスコースではビッグデータ解析などを学び、課題設定や意思決定に活かす論理的思考力の育成、統計学、データマイニング、AIなどの技術を実践的に学び、高度なデータ処理能力の教育を行う。さらに経営学部の学問領域を活用し、2コースの個別の専門性やコース間の連携を体系的に発展させてオリジナルティーのある教育を行う。</p> <p>ウ 実践経済コースは、国家公務員、地方公務員、各企業、コンサルタント、各種団体職員等です。データサイエンスコースは、データアナリスト、データサイエンティスト、各企業、コンサルタント、SE、プログラマー、各種団体職員等である。</p>									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	経営学部 エコノデータサイエンス学科	年	人	年次人	人	学士(経営学)	経済学関係	令和8年4月第1年次	宮崎県宮崎市古城町丸尾100番地	
	計	4	30		120					
同一設置者内における変更状況(定員の移行、名称の変更等)	経営学部 経営学科 [定員減] (△ 30) (令和8年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	エコノデータサイエンス学科	講義	演習	実験・実習	計	136単位				
		155科目	13科目	7科目	175科目					
新設	学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員(助手を除く)	
			教授	准教授	講師	助教	計			
	設	経営学部 エコノデータサイエンス学科		人	人	人	人	人	人	人
				4	3	1	0	8	0	13
				(4)	(3)	(1)	(0)	(8)	(0)	(13)
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		4	3	1	0	8		
				(4)	(3)	(1)	(0)	(8)		
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)		0	0	0	0	0		
			(0)	(0)	(0)	(0)	(0)			
	小計(a~b)		4	3	1	0	8			
		(4)	(3)	(1)	(0)	(8)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)		0	0	0	0	0				
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)		0	0	0	0	0				
		(0)	(0)	(0)	(0)	(0)				
計(a~d)		4	3	1	0	8				
		(4)	(3)	(1)	(0)	(8)				
計		4	3	1	0	8	0	—		
		(4)	(3)	(1)	(0)	(8)	(0)	(—)		

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人

既設	経営学部 経営学科		8 (8)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	18 (18)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 6人	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	18 (18)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	小計（a～b）	8 (8)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	15 (15)					
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計（a～d）	8 (8)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	15 (15)					
計	8 (8)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	15 (15)	0 (0)			— (—)		
既設	法学部 法律学科		11 (11)	6 (6)	5 (5)	1 (1)	23 (23)	0 (0)	19 (19)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 11人	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (11)	6 (6)	5 (5)	1 (1)	23 (23)	0 (0)	19 (19)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	小計（a～b）	11 (11)	6 (6)	5 (5)	1 (1)	23 (23)					
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	計（a～d）	11 (11)	6 (6)	5 (5)	1 (1)	23 (23)					
計	11 (11)	6 (6)	5 (5)	1 (1)	23 (23)	0 (0)			— (—)		
合 計			23 (23)	12 (12)	10 (10)	1 (1)	46 (23)	0 (0)	— (—)		
職 種			専 属		そ の 他		計				
事 務 職 員			27人 (27)		0人 (0)		27人 (27)				
技 術 職 員			0 (0)		0 (0)		0 (0)				
図 書 館 職 員			2人 (2)		0 (0)		2人 (2)				
そ の 他 の 職 員			0 (0)		0 (0)		0 (0)				
指 導 補 助 者			0 (0)		0 (0)		0 (0)				
計			29人 (29)		0 (0)		29人 (29)				
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地		37373㎡		-		-		37373㎡		
	そ の 他		76352㎡		-		-		76352㎡		
	合 計		113725㎡		-		-		113725㎡		
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
			21883㎡ (21883㎡)		-		-		21883㎡ (21883㎡)		
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室		32室		教 員 研 究 室		49室		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕		電子図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		機械・器具 点	標本 点
		冊		種		種		種			
		エコノデータサイ エンス学科		8043 [2829] (7312 [2572])		3 [0] (3 [0])		28 [6] (25 [5])		0 [0] (0 [0])	
計		8043 [2829] (7312 [2572])		3 [0] (3 [0])		28 [6] (25 [5])		0 [0] (0 [0])		0 (0)	0 (0)
スポーツ施設等			スポーツ施設 ㎡		講堂 ㎡		厚生補導施設 ㎡		4572㎡		

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	教員1人当り研究費等	0千円	520千円	520千円	520千円	520千円	0千円	0千円	
	共同研究費等	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	
	図書購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	
	設備購入費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
			1082千円	875千円	875千円	875千円	0千円	0千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要								
既設大学の状況	大学等の名称	宮崎産業経営大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	取容定員充足率	開設年度	所在地
	経営学部経営学科	年	人	年次人	人	学士(経営学)	倍	昭和62年4月	宮崎県宮崎市古城町丸尾100番地
法学部法律学科	4	100	0	400	学士(法学)	1.20	昭和62年4月		
	附属施設の概要	該当なし							

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の取容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人大淀学園 設置届出に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
宮崎産業経営大学			
法学部			
法律学科	100	-	400
経営学部			
経営学科	100	-	400
計	200		800

令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
宮崎産業経営大学				
法学部				
法律学科	100	-	400	
経営学部				
経営学科	70	-	280	定員変更 (△30)
エコノデータサイエンス学科	30	-	120	学科の設置 (届出)
計	200		800	

設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届出時における状況					新設学部等の学年進行終了時における状況						
学部等の名称	授与する学位等		異動先	基幹教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	基幹教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
経営学部経営学科	学士(経営学)	学士(経済学関係)	経営学部エコノデータサイエンス学科	8	4	経営学部エコノデータサイエンス学科	学士(経営学)	学士(経済学関係)	経営学部経営学科	8	4
			経営学部経営学科	15	8						
			計	23	12				計	8	4
						経営学部経営学科	学士(経営学)	学士(経済学関係)	経営学部経営学科	15	8
			計						計	15	8
			計						計		
			計						計		

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改編内容等	学位又は 学科の分野	手続きの区分
昭和62年4月	経営学部経営学科 設置	経済学関係	設置認可(学部)
令和4年4月	経営学部経営学科のカリキュラム変更(目的:実践経済コース新設及び情報系(データサイエンス系専門)カリキュラム拡充対応) ・経済学関連:ゲーム理論Ⅰ・Ⅱ、行動経済学、産業組織論、環境経済学、公共政策、経済史・思想入門、実践経済演習等カリキュラム追加 ・情報学関連:データサイエンス入門、ビッグデータ解析、機械学習、データマイニング、多変量解析等のデータサイエンス系専門科目をカリキュラムに追加)	経済学関係	学則変更
令和6年4月	経営学部経営学科のカリキュラム変更(目的:データサイエンスコース新設に向けた情報系(データサイエンス系専門)カリキュラム拡充対応) ・情報学関連:実践人工知能、モデル化とシミュレーション及び社会調査法(ビッグデータ応用分野)、時系列解析、データサイエンス演習をカリキュラムに追加	経済学関係	学則変更
令和8年4月	経営学部エコノデータサイエンス学科 設置 ・エコノデータサイエンス学科配属コース:実践経済コース、データサイエンスコース (備考 経営学科配属コース:総合経営コース、スポーツマネジメントコース)	経済学関係	設置届出(学科)

教育課程等の概要																	
(経営学部エコノデータサイエンス学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員	
総合講座	日本語理解A(国語総合)	1前	○		2		○					1					
	日本語理解B(散文読解)	1後	○		2		○				1						
	日本語理解C(主題と構造)	2前			2		○				1						
	日本語理解D(文章表現)	2後			2		○				1						
	英語基礎A(初級英文法)	1前	○		2		○								1		
	英語基礎B(長文読解)	1後	○		2		○								1		
	数量的処理A(基礎数学)	1前	○		2		○								1		
	数量的処理B(判断推理)	1後	○		2		○								1		
	数量的処理C(数的推理)	2前			2		○								1		
小計(9科目)	—	—	—	0	18	0	—	—	—	—	0	0	1	0	0	2	
情報	情報処理基礎	1前			2		○			○						1	
	情報処理応用	1後	○	2			○			○	1		1			2	
	コンピュータ概論A	1前			2		○				1						
	コンピュータ概論B	1後			2		○				1						
小計(4科目)	—	—	—	2	6	0	—	—	—	1	1	1	0	0	2		
外国語	語源で理解する英単語	1前			2		○				1						
	実践英会話A	1前			2		○									1	
	実践英会話B	1後			2		○									1	
	英語コミュニケーションA	1前			2		○									1	
	英語コミュニケーションB	1後			2		○									1	
	AIでEIGO	2前			2		○				1						
	ドラマで学ぶ英会話	2後			2		○				1						
	ゲームで英会話	2後			2				○							1	
	中国語I	1前			2		○									1	
	中国語II	1後			2		○									1	
	ドイツ語I	1前			2		○				1						
	ドイツ語II	1後			2		○				1						
	フランス語I	1前			2		○				1						
	フランス語II	1後			2		○				1						
小計(14科目)	—	—	—	0	28	0	—	—	—	4	0	0	0	0	3		
総合教育科目	人間と哲学	1前			2		○									1	
	人間と倫理	1後			2		○									1	
	人間と歴史	1前			2		○									1	
	人間と文学	1後			2		○					1					
	人間と社会	1後			2		○									1	
	人間と教育	1前			2		○									1	
	人間と心理	1前			2		○					1					
	人間と環境	1前			2		○									1	
	人間と科学	1後			2		○									1	
	地域と文化	1後			2		○									1	
	異文化理解と国際交流	1前			2		○				1						
	現代社会と法A	1前			2		○									1	
	現代社会と法B	1後			2		○									1	
	現代社会と政治A	1前			2		○									1	
	現代社会と政治B	1後			2		○									1	
	現代社会と経済A	1前			2		○									1	
	現代社会と経済B	1後			2		○									1	
小計(17科目)	—	—	—	0	34	0	—	—	—	1	0	2	0	0	9		
スポーツ・健康	スポーツ総合	1前			2		○			○			1			1	共同 ※講義

	医療事務セミナー	2後				2	○			1					
	特別講座A	1通				4	○								1
	特別講座B	1後				2	○								1
	小計(9科目)	—	—	0	0	20	—			3	0	0	0	0	3
演習	進路研究演習1	1通	○	4				○		3		4			
	進路研究演習2	2通	○	2				○		2	2	3			
	進路研究演習3	3通	○	2				○		4		3			
	進路研究演習4	4通	○	2				○		3	1	3			
	専門演習Ⅰ	2通	○	4				○		9	6	1			
	専門演習Ⅱ	3通	○	4				○		9	6	1			
	専門演習Ⅲ	4通	○	4				○		8	5				
	小計(7科目)	—	—	22	0	0	—			12	6	5	0	0	0
合計(175科目)		—	—	30	310	20	—			12	6	5	0	0	24
学位又は称号	学士(経営学)			学位又は学科の分野				経済学関係							
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等					
総合教育科目の必修科目2単位、基礎専門科目の必修科目6単位、専門科目の必修科目22単位、総合教育科目の選択科目から4単位、基礎専門科目の選択科目から4単位以上を修得し、かつ総合教育科目から36単位以上、経営学部専門教育科目から100単位以上の、計136単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限：49単位(年間))										1学年の学期区分			2学期		
										1学期の授業期間			15週		
										1時限の授業の標準時間			90分		

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成する。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受は届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目についてを記入すること。

教育課程等の概要															
(経営学部経営学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合講座	日本語理解A (国語総合)	1前	○		2		○					1			
	日本語理解B (散文読解)	1後	○		2		○				1				
	日本語理解C (主題と構造)	2前			2		○				1				
	日本語理解D (文章表現)	2後			2		○				1				
	英語基礎A (初級英文法)	1前	○		2		○							1	
	英語基礎B (長文読解)	1後	○		2		○							1	
	数量的処理A (基礎数学)	1前	○		2		○							1	
	数量的処理B (判断推理)	1後	○		2		○							1	
	数量的処理C (数的推理)	2前			2		○							1	
小計 (9科目)	—	—	—	0	18	0	—	—	—	0	0	1	0	0	2
情報	情報処理基礎	1前			2		○		○						1
	情報処理応用	1後	○	2			○		○	1		1			2
	コンピュータ概論A	1前			2		○				1				
	コンピュータ概論B	1後			2		○				1				
小計 (4科目)	—	—	2	6	0	—	—	—	1	1	1	0	0	2	
外国語	語源で理解する英単語	1前			2		○				1				
	実践英会話A	1前			2		○							1	
	実践英会話B	1後			2		○							1	
	英語コミュニケーションA	1前			2		○							1	
	英語コミュニケーションB	1後			2		○							1	
	AIでE I G O	2前			2		○			1					
	ドラマで学ぶ英会話	2後			2		○			1					
	ゲームで英会話	2後			2				○					1	
	中国語 I	1前			2		○							1	
	中国語 II	1後			2		○							1	
	ドイツ語 I	1前			2		○			1					
	ドイツ語 II	1後			2		○			1					
	フランス語 I	1前			2		○			1					
	フランス語 II	1後			2		○			1					
小計 (14科目)	—	—	0	28	0	—	—	—	4	0	0	0	0	3	
総合教育科目	人間と哲学	1前			2		○								1
	人間と倫理	1後			2		○								1
	人間と歴史	1前			2		○								1
	人間と文学	1後			2		○				1				
	人間と社会	1後			2		○								1
	人間と教育	1前			2		○								1
	人間と心理	1前			2		○				1				
	人間と環境	1前			2		○								1
	人間と科学	1後			2		○								1
	地域と文化	1後			2		○								1
	異文化理解と国際交流	1前			2		○			1					
	現代社会と法A	1前			2		○								1
	現代社会と法B	1後			2		○								1
	現代社会と政治A	1前			2		○								1
	現代社会と政治B	1後			2		○								1
	現代社会と経済A	1前			2		○								1
	現代社会と経済B	1後			2		○								1
小計 (17科目)	—	—	0	34	0	—	—	—	1	0	2	0	0	9	
スポーツ・健康	スポーツ総合	1前			2		○		○			1			1
	トレーニング科学	1前			2		○								1
	スポーツ指導論	1前			2		○								1
	スポーツ医学	1後			2		○								1
	スポーツ栄養学	1前			2		○								1

共同※講義

	スポーツ心理学	1後		2	○				1						
	スポーツ社会学	1前		2	○								1		
	障がいスポーツ論	1後		2	○								1		
	小計 (8科目)	—	—	0	16	0	—		0	0	2	0	0	5	
留 学 生 対 応 科 目	日本語・日本事情A	1前		2	○									0	
	日本語・日本事情B	1後		2	○									0	
	小計 (2科目)	—	—	0	4	0	—		0	0	0	0	0	0	
基 礎 専 門 科 目	経営学総論A	1前	○	2	○				1						
	経営学総論B	1後	○	2	○				1						
	情報倫理	1前	○	2	○									1	
	簿記論I	1前	○	2	○					1					
	簿記論II	1後	○	2	○					1					
	上級簿記A	1前	○	2	○					1					
	上級簿記B	1後	○	2	○					1					
	ミクロ経済学I	1前		2	○						1				
	ミクロ経済学II	1後		2	○						1				
	マクロ経済学I	1前		2	○					1					
	マクロ経済学II	1後		2	○					1					
	統計学I	1前		2	○					1					
	統計学II	1後		2	○					1					
	基礎数学I	1前		2	○					1					
	基礎数学II	1後		2	○					1					
	プログラミング基礎I	1前		2	○		○		1					※講義	
	プログラミング基礎II	1後		2	○		○		1					※講義	
	プログラミング演習I	2前		2			○		1						
	プログラミング演習II	2後		2			○		1						
小計 (19科目)	—	—	6	32	0	—		3	3	1	0	0	1		
専 門 科 目	数学ステップアップ講座A	1前		2	○									2	共同
	数学ステップアップ講座B	1後		2	○									2	共同
	企業論A	2前		2	○					1					
	企業論B	2後		2	○					1					
	国際経営論	2前		2	○				1						
	経営管理論A	2前	○	2	○				1						
	経営管理論B	2後	○	2	○				1						
	人的資源管理論A	2前	○	2	○				1						
	人的資源管理論B	2後	○	2	○				1						
	財務管理論A	2前	○	2	○					1					
	財務管理論B	2後	○	2	○					1					
	商学概論A	1前	○	2	○				1						
	商学概論B	1後	○	2	○				1						
	マーケティング論A	2前	○	2	○				1						
	マーケティング論B	2後	○	2	○				1						
	経営シミュレーション	2後		2	○				1						
	生産管理論A	2前		2	○				1						
	生産管理論B	2後		2	○				1						
	経営組織論A	3前		2	○				1						隔年
	経営組織論B	3後		2	○				1						隔年
	経営戦略論A	2前	○	2	○				1						
	経営戦略論B	2後	○	2	○				1						
	農業経営論A	3前		2	○									1	
	農業経営論B	3後		2	○									1	
	経営史	2後		2	○					1					
	エコビジネス	3前		2	○				1						
	経営情報論I	2前	○	2	○				1						
	経営情報論II	2後	○	2	○				1						
	会計学I	1前	○	2	○					1					
	会計学II	1後	○	2	○					1					
	財務諸表論A	2前	○	2	○				1						
	財務諸表論B	2後	○	2	○				1						
管理会計論A	2前		2	○									1		
管理会計論B	2後		2	○									1		
原価計算論I	2前	○	2	○					1						
原価計算論II	2後	○	2	○					1						

- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区別課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
- (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等前期課程に係る科目数」、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者を修了したものと併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目についてを記入すること。

授 業 科 目 の 概 要

(経営学部エコノデータサイエンス学科)

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合講座	日本語理解A	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 大学生に求められる基本的かつ総合的な日本語運用能力（漢字の読み書きや敬語の使い方、読解力、記述力など）を身につける。② 論理的思考力を磨き、より高度な文章を理解できるようになる。③ 多種多様な言語情報を批判的に精査・分析・選別するためのリテラシーを身につける。④ 古今東西の様々な文章や作品を、主体的に受容していくための素地をつくる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。この授業は、大学で「国語」を学ぶ意義から始まり、日本語文法や敬語、漢字との関係性を学ぶ。古典文学の必要性や文学批評の方法を考察し、メディア・リテラシーとして情報分析と批判的思考力を養う。評論文を通じてクリティカル・リーディングを学び、文章表現の基礎として読むことから書くことへの移行やレポート作成術、話し言葉と書き言葉の違いを学ぶ。最後に『船を編む』を通じて国語と言葉の重要性を総括する。</p>	
	日本語理解B	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 活字やwebによるメディアが有する社会的な意味を的確に把握する。② 文字や言葉を中心とした情報の受容・発信に関わるリテラシーを身につける。③ 上記の能力を、自身の学生生活や社会生活の中で適切に活かせるようになる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。この授業は、「散文」とメディアの関係を導入し、メディア読解の基礎や新聞記事の報道、報道写真、社説の読み方を学ぶ。「声」のメディアとして演説の分析や、ネット文化の中のプロの記事の社会性を考察する。視覚メディアではインフォグラフィック、女性雑誌の変遷、広告のイメージ戦略を扱う。小説の読解では、短編小説や田中康夫『なんとなく、クリスタル』の記号論的分析を行う。最後に、岡本太郎『沖縄文化論』やポピュラー音楽の歌詞の文学性を探求する。</p>	
	日本語理解C		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 様々な作品や文章に対する鑑賞眼を養い、その主題や構造、論点などを的確にとらえられるようになる。② 物語分析や批評の理論と方法を学ぶことを通じて、作品を取り巻く社会事象や歴史的問題などに対する批評的なまなざしを身につける。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。この授業は、「主題」（テーマ）の定義から始まり、批評理論の基礎として物語の構造分析やテクストの概念を学ぶ。構造主義理論を用いた手塚治虫のマンガ分析や、脱構築理論とイデオロギー批評を紹介する。フェミニズム・ジェンダー・クィアの視点で『舞姫』や『アナと雪の女王』を分析し、ポストコロニアル理論で漱石の『夢十夜』を読む。エコ・クリティシズムでは宮沢賢治やジブリ作品を扱い、災害文学として『想像ラジオ』を考察する。核文学と現代の神話を新海誠作品や『攻殻機動隊』で探求し、総括として「ことば」と「物語」を考える。</p>	
	日本語理解D		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① さまざまな状況やフォーマットに応じて、適切な言葉を選びながら論理的かつ他者に伝わる文章を書けるようになる。② 多種多様な文章表現の方法を学び、自ら書くという実践的行為を通して、より高度かつ豊かな表現力を身につける。③ 大学生あるいは社会人として必要とされる技能としての日本語運用能力を身につける。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。この授業は、「文章力」の定義から始まり、エクリチュールとパロール、重複回避のテクニック、句読点と接続詞の使い方など文章表現の基礎を学ぶ。文章構成の技術として、具体的な伝え方、段落分けとトピック・センテンス、主張型文章の作り方、説得力のある文章の書き方を習得する。実用文・ビジネス文書の実践や、作家たちの文章表現術として『文章読本』の読み方や紀行文のメソッドを学ぶ。創作の愉しみとして、小説執筆や俳句の季節描写を体験し、総括として文章とことばの重要性を考察する。</p>	
	英語基礎A	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。英文法についての知識を身につけ、状況に応じて正しく使うことができるようになる。平易な英文を読み、状況に応じて正しく理解することができるようになる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。Unit 1 一般動詞とbe動詞（現在形）：文法復習、Unit 1 一般動詞とbe動詞（現在形）：発展演習B、Unit 2 一般動詞とbe動詞（過去形）：文法復習・演習A、Unit 2 一般動詞とbe動詞（過去形）：発展演習B、Unit 3 疑問文：文法復習・演習A、Unit 3 疑問文：発展演習B、Unit 4 否定文：文法復習・演習A、Unit 4 否定文：発展演習B、Unit 5 文型と文の要素：演習A、Unit 5 文型と文の要素：発展演習B、Unit 6 進行形：文法復習・演習A、Unit 6 進行形：発展演習B、Unit 7 受動態：文法復習・演習A、Unit 7 受動態：発展演習B、前期の総復習。</p>	

英語基礎 B	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。英語の5文型に関する理解が深まり、様々な英文を読むことができるようになる。Paragraph Readingの基礎が習得できる。Paragraph Readingの知識を身につけ、正しい英文読解ができるようになる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。この授業は、まずイントロダクションから始まり、『Voice of America』の記事を取り上げ、ロングCOVIDの影響、RECOVERプロジェクト、脳の霧に対する治療法を学ぶ。さらに、女性大統領やアイビーリーグの学校、女性がリーダーシップを取ることに関する記事を読む。次に、『Wall Street Journal』の記事を通じて、新しいロゴXの発表や企業のロゴ変更、イーロン・マスクの人物像、スマートフォン画面の過剰な情報表示のリスクについて学ぶ。また、野球史上最も偉大なフリーエージェント、北米プロスポーツ契約の記録を破った選手、スター揃いのドジャースチーム、9月に肘の手術を受けた選手についての記事も学ぶ。</p>	
数量的処理 A	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得する。②問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力を身につける③数学と実社会との関連についての理解を深め、数学的に考える資質・能力を身につける。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。この授業は、オリエンテーションから始まり、1次計算技能として四則演算、因数分解、方程式、不等式、総合題(式の値、直線、円周角など)を学ぶ。2次数理技能では図形(回転、平行四辺形)、立方体、場合の数、統計、放物線、剰余系や2次数理技能の座標、速度と距離、作図、平行四辺形と比、台形と内接円、確率などを学習する。3回目以降も同様に総合題や統計、放物線、立方体、数列、文章題、三角形、中点、回転運動、光の反射など幅広いテーマを扱い、6回目のまとめとして総合演習と小テストを行う。</p>	
数量的処理 B	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①問題の解法のパターンやテクニックを理解し、使いこなすことができる。②問題文から情報を整理し、場合分けなどして結論を導く論理的思考力を身につける。③時間内で問題を解決する処理能力を身につける。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション、暗号の解説、暗号の解説、集合と要素の数、命題の真偽、対応関係、順序関係、順序関係、試合の勝ち負け、試合の勝ち負け、発言の真偽、操作の方法、数量の関係、数量の関係、経路と距離、方位と方角、小テスト1、相互の位置関係、図形の切断と構成、図形の切断と構成、折り紙と模様、点の移動と軌跡、図形のつながり、立体の組立て、展開図とその応用、展開図とその応用、投影図とその応用、立体の回転と切断、小テスト2、立体の回転と切断、補足。</p>	
数量的処理 C		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①問題の解法のパターンやテクニックを理解し、使いこなすことができる。②問題を解決するために必要な数学的な思考力、判断力を身につける。③時間内で問題を解決する処理能力を身につける。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション、数の計算、約数・倍数、約数・倍数、覆面算・方陣算、記数法・整数問題、数列、1次方程式・1次不等式、1次方程式・1次不等式、2次関数・2次方程式、1次方程式の整数解・剰余算、集合の要素の個数、濃度・割合・比、速さ、時計算・年齢算、小テスト1、仕事算・ニュートン算、場合の数、順列、組合せ、確率、確率、三角形の性質、三角形の性質、多角形、円と扇形、円と扇形、立体図形と最短距離、立体図形と最短距離、小テスト2、補足、まとめ。</p>	
情報処理基礎		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。ビジネス業務処理には欠かせないアプリケーションソフトウェアの中から、ここではワープロソフトと表計算ソフトを使用して、その機能を活用したビジネスデータの処理方法の基本を修得する。Wordにおいて円滑な日本語入力ができる。Excelにおいて適切なグラフが作成できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス/環境設定とコンピュータ基本操作、電子メールの活用方法、ハードウェアとソフトウェア、アプリケーションの基本操作、インターネットの利用、Word 入門、日本語の入力、文章の入力、文書の作成、Excelの起動と終了/データ入力の基本、基本的なワークシートの編集、ワークシートの書式設定、グラフの作成、グラフの設定の変更、アプリ間のデータ活用</p>	
情報処理応用		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。パソコンを活用した演習を通して以下の目標を達成する。①プレゼンテーションソフトの基礎から応用レベルまで習得している。②ワープロソフトの基礎から応用レベルまで習得している。③表計算ソフトの基礎から応用レベルまで習得している。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、PowerPointの基礎知識、基本的なプレゼンテーションの作成、表の作成、グラフの作成、図形やSmartArtグラフィックの作成、画像やワードアートの挿入、特殊効果の設定、Word 図形やSmartArtグラフィックの作成、Word 図・クリップアート・ワードアートの挿入、Excel ピボットテーブルの作成、データベース機能、Excel データの集計、グラフの設定の変更と関数の挿入、Excel レポートフィルターの利用、アプリケーション間のデータ活用、Word文書へのExcelデータ、Webデータ活用、スクリーンショット機能。</p>	

情報	コンピュータ概論 A	本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。ビジネス実務やコンピュータの知識と技術を習得することで、以下の目標を達成する。①柔軟に判断できる情報活用能力を身に付ける。②基幹業務システムの構築や運用、保守、管理といった応用力を養う。③「情報」を幅広い視点で見られるようになること。授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、企業活動と法務、経営マネジメント、システム戦略、情報表現とデータ構造、コンピュータにおける情報の表現、問題解決処理手順、情報と情報の利用、コンピュータの種類と動作原理、オペレーティングシステム、パソコン関連機器とインタフェース、インターネットのサービスと接続、WWWの利用とコンテンツ、Web作成、ネットワークの概要、プロトコルとOSI参照モデル、LANの基礎知識と構成機器、WANの基礎知識、パソコンとネットワーク、LANの構築とセキュリティ、個別問題演習、特論（広告との関係）、まとめ。	
	コンピュータ概論 B	本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。ビジネス実務やコンピュータの知識と技術を習得することで、以下の目標を達成する。①柔軟に判断できる情報活用能力を身に付ける。②基幹業務システムの構築や運用、保守、管理といった応用力を養う。③「情報」を幅広い視点で見られるようになること。授業計画は次の内容を含む。ソフトウェアの種類と利用法、プレゼンテーションソフト、データベースソフトの機能と活用、各種アプリケーションソフト、表計算ソフトの仕組み、表計算ソフトの活用、情報通信技術の進展、ビジネスにおける情報化、社会と個人生活における情報化、情報ネットワーク社会の諸問題、知的財産権、情報モラルとネットワークセキュリティ、コンピュータセキュリティ、特論（服飾との関係）、特論（観光との関係）、特論（音楽との関係）、特論（人工知能との関係）、総合問題演習、まとめ。	
	語源で理解する英単語	本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①知らない英単語を見聞きした時に、瞬時に大まかな意味を捉えることができる。②様々な同義語について、場面に応じた適切な単語を選んで理解したり会話したりすることができる。授業計画は次の内容を含む。この授業は、オリエンテーションで講義の受け方や評価方法を説明するところから始まる。その後は、各接頭辞と語根の組み合わせを順次学ぶ。取り扱う接頭辞は以下の通りである。「ad-」「con-, com-, co-」「de-」「sub-」「sur-, super-」「ex-」「pro-, pre-, for-」「re-」「in-, im-, en-」「ab-, dis-, se-」「un-, im-, in-, a-」「mono-, uni-, bi-, du-, tri-, multi-」「inter-, dia-, per-」「sur-, trans-, super-」。	
	実践英会話 A	本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 人間性・社会性・国際性チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。*多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。② 主体的に学ぶ力自ら学習計画を立て、主体的な学びを実践できる。③ コミュニケーション能力日本語と英語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。他者理解・自己表現力・相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。授業計画は次の内容を含む。この授業は、オリエンテーションとBOOST&A++拡張技術の紹介から始まる。Unit 1では挨拶や自己紹介、現在形と質問形式を学び、Unit 2では家族やコミュニティの描写と所有格を学ぶ。Unit 3では趣味や意見の表現、比較級を扱い、復習後、Unit 4では時間と日付の伝達、スケジュールについて学ぶ。Unit 5では買い物での数やお金のやり取りを学び、Unit 6では日常のルーティンと頻度副詞を学ぶ。最後に、総復習と最終試験の準備を行う。	
	実践英会話 B	本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 人間性・社会性・国際性チームワーク：他者と協調・協働して行動できる。*多文化・異文化理解：多文化・異文化に関する知識を理解できる。② 主体的に学ぶ力自ら学習計画を立て、主体的な学びを実践できる。③ コミュニケーション能力日本語と英語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。他者理解・自己表現力・相手の伝えたいことを的確に理解し、有効な方法で自己を表現できる。授業計画は次の内容を含む。この授業はオリエンテーションとBOOST&A++拡張技術の紹介から始まり、Unit 7では過去の経験を話し、不規則動詞を学ぶ。Unit 8では道案内、Unit 9では旅行のリクエスト、Unit 10では招待の受け入れ方を学ぶ。Unit 11ではレストランでの注文、Unit 12では病気の説明と助言を学び、最後に復習と最終試験の準備を行う。	
	英語コミュニケーション A	本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。英語を音で認識し、音で再生（話すことが）できるようになる。口語英語表現とそのバラエティーについて理解を向上させる。授業計画は次の内容を含む。この授業は、ガイダンスで講義の進め方と授業に対する心構えを学ぶことから始まる。次に、興味のある話題について準備とディスカッションを行う。続いて、宮崎県について話し合い、さらに学校生活をテーマにした準備とディスカッションを行う。その後、地球温暖化について話し合い、続いて多様性に関する準備とディスカッションを行う。さらに最近のニュースや話題を取り上げ、最後に生成AIについての準備とディスカッションを行う。	

英語コミュニケーションB		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。英語を音で認識し、音で再生（話すことが）できるようになる。口語英語表現とそのバラエティーについて理解を向上させる。授業計画は次の内容を含む。この授業は、ガイダンスで講義の進め方と授業に対する心構えを学ぶことから始まる。まず、自分が好きな教科について調査、報告、レビューを行う。次に、自分が好きなアーティストについて同様の手順を踏む。つづいて、自分の目標に関する調査、報告、レビューを行い、さらに、最近のニュースや話題について取り組む。最後に、好きな食べ物について調査し、報告を行う。</p>	
AIでE I G O		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。(1) 英語を文章レベルで聞く・話す際のルールについて一定の理解ができること。(2) 頭で考えながらも、文法を意識しながら、英語を一定程度の文章に組み立てて聞く・話すことができること。(3) 慣用句など決まった形式の構文については、反射的に聞く・話すことができること。会話の後に何が間違っていたか自身で理解ができ、修正できること。以上、各受講者のレベルに合わせていずれかの目標を設定して講義に臨むこと。授業計画は次の内容を含む。この授業は、ガイダンスで講義の受け方や目標シートの作成から始まる。Chat 1では趣味について話し、Chat 2では最近見たテレビや映画について語る。Chat 3では日本の料理や文化、興味のある国について話す。Chat 4では日常の出来事を共有し、Chat 5では専門分野についてAIと対話する。Chat 6では将来の夢を語り、英語スピーキングテストでスピーキング力を向上させる。最後に全体のまとめを行う。</p>	
ドラマで学ぶ英会話		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①ドラマや映画を視聴し、前後の文脈に気をつけながらせりふを理解することができる。②せりふを何度も音読して、登場人物になったつもりで実際に言うことができる。授業計画は次の内容を含む。この授業は、オリエンテーションで授業の進め方や評価方法を説明することから始まる。毎時間ドラマや映画のワンシーンを鑑賞しながら、ディクテーションを通してリスニング力を伸ばしていく。そして視聴した箇所について解説を聞いた後、音読を繰り返して該当箇所がスラスラ言えるよう練習する。本講義の締めくくりとして、自分が最も気に入ったシーンを取り上げ、映像とともにアフレコでのプレゼンテーションを行う。</p>	
ゲームで英会話		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。自発的に英語で話したり、質問したり、応答できる力を養う。それぞれのトピックにおいて正確な文法、語法、そして語彙を使用することができるようになる。授業計画は次の内容を含む。この授業はガイダンスから始まり、ボードゲームを通じて自己紹介を行う。次に家族の木を使い、ファインドサムワンゲームで家族についての会話を学ぶ。続いて時間管理の会話を秘密の人物ゲームで学び、Quiz 1後にお金ゲームでショッピングの会話を学ぶ。さらに推理ゲームで日課や趣味について話し、報告ゲームで描写を学ぶ。Quiz 2後に振り返りを行い、続いてQ&Aゲームで道案内を、さらに旅行計画と予約の会話を学ぶ。続いて医者との面談で健康についての会話を学び、Quiz 3後に文化の違いについての会話を学ぶ。さらに外食の注文をロールプレイで練習し、最後にワークショップとインタビューを行いまとめる。</p>	
中国語 I		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。本授業では、①、中国語（普通話）の基礎を学ぶ。②、中国語の音を正確に発音でき、かつ聞き取れるようにする。③、漢字（簡体字）が正しく書けるようになること。④、自分の名前や大学名など基本的な自己紹介ができるようになることが目標である。授業計画は次の内容を含む。この授業はオリエンテーションから始まり、第一課から第三課では発音規則、授業用語、数字を学ぶ。第四課では人称代詞、助詞“的”、疑問“吗”の発音を学び、第五課では名前の尋ね方、家族構成、動詞“有”を扱う。第六課では本文と文法説明、介詞“从”の使い方、年・月・曜日の練習を行う。第七課では動詞“在”の使い方、時刻表現を学び、第八課では助動詞“想”と“是～的”構文を扱う。第九課では中国語での自己紹介、動態助詞“过”、人民币の教え方を学ぶ。第十課では自己紹介の練習と動詞の重ね型、総合問題を行い、最後に前期総合復習をする。</p>	
中国語 II		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。中国語 I の内容をふまえ、①、中国語で簡単な自己紹介ができる、簡単な日常会話が話せること。②、簡単な日常会話が聴き取れるようになることが目標である。③、自分の名前や大学名に加えて、家族や出身地などの簡単な自己紹介ができるようになるのが目標である。授業計画は次の内容を含む。この授業はオリエンテーションと第6課までの復習から始まる。第1課で“因为…所以”の使い方、第2課で発音テストと練習問題、第3課で結果補助語、助詞“要”と“高”を学ぶ。第4課で発音練習、第5課で使役表現と動態助詞“着”、第6課で発音練習。第7課で助詞“能”と反復疑問文、中国語検定の勉強。第8課で発音練習、第9課で“有点儿”“一点儿”の違いを学び、第10課で発音練習と中国語検定の勉強。第11課で助動詞“会”“可以”、第12課で介詞“跟”、第13課で副詞“又”と“再”を学び、第14課で総合復習を行う。</p>	

ドイツ語Ⅰ		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。ドイツ語の習得に欠かすことのできない文法の基礎事項を理解・暗記する。同時にその知識を実践的に運用する(読む・書く・聞く・話す)能力を養成・獲得する。具体的には正しい発音を身につけ、簡単な会話を暗記し、辞書を用いれば簡単な文章の読み書きができるようになることを目指す。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ドイツ語概説、発音(1)前編、発音(2)後編、Lektion 1 主語、Lektion 2 動詞の人称変化(1)文法解説、Lektion 2 動詞の人称変化(2)文法練習、Lektion 3 不規則動詞の人称変化(1)文法解説、Lektion 3 不規則動詞の人称変化(2)文法練習、Lektion 4 名詞の性・格と冠詞(1)文法解説、Lektion 4 名詞の性・格と冠詞(2)文法練習、Lektion 5 人称代名詞(1)文法解説、Lektion 5 人称代名詞(2)文法練習、Lektion 6 所有代名詞と否定冠詞(1)文法解説、Lektion 6 所有代名詞と否定冠詞(2)文法練習、前期のまとめ。</p>	
ドイツ語Ⅱ		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① ドイツ語の習得に欠かすことのできない文法の基礎事項を理解・暗記する。② 同時にその知識を実践的に運用する(読む・書く・聞く・話す)能力を養成・獲得する。具体的には正しい発音を身につけ、簡単な会話を暗記し、辞書を用いれば簡単な文章の読み書きができるようになることを目指す。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。この授業は以下の内容で進行する。Lektion 7では名詞の数と格変化を学び、文法解説と練習を行う。Lektion 8では語法の助動詞について学び、文法解説と練習を行う。Lektion 9では語順と疑問詞を学び、文法解説と練習を行う。Lektion 10では指示代名詞、Lektion 11では不定代名詞について学び、文法解説と練習を行う。Lektion 14では前置詞、Lektion 15では数詞、Lektion 16では接続詞、Lektion 17では動詞の三基本形と過去変化について学び、それぞれ文法解説と練習を行う。最後に後期のまとめを行う。</p>	
フランス語Ⅰ		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。フランス語の基礎的運用能力を身につけ、コミュニケーション能力を高める。簡単な日常会話ができる。フランス語の文化的背景を学ぶ。パソコンでフランス語を正確に入力できる。これらによって国際的視野(人間性・教養・国際性)を持ち、国内外の広いフィールドで中核的な人材として活躍するための専門的な知識、技能、読む力、考える力及び判断力(専門力・読解力・思考力・判断力)を身に付ける。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。アルファベ、つづり字の読み方、あいさつ/お礼・お詫びの表現、数字(1~20)、名詞と冠詞、身の回りの物を使った表現、er動詞の活用、否定表現、動詞êtreとavoir、指示形容詞、数字(20~60)、形容詞の使い方、不規則な語尾変化をする形容詞、国名と国籍、動詞allerとvenir、近接未来と近接過去</p>	
フランス語Ⅱ		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。フランス語の基礎的運用能力を身につけ、コミュニケーション能力を高める。簡単な日常会話ができる。フランス語の文化的背景を学ぶ。パソコンでフランス語を正確に入力できる。これらによって国際的視野(人間性・教養・国際性)を持ち、国内外の広いフィールドで中核的な人材として活躍するための専門的な知識、技能、読む力、考える力及び判断力(専門力・読解力・思考力・判断力)を身に付ける。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。さまざまな疑問文、所有形容詞、前置詞、ir動詞、命令形、数字(60~)、疑問詞①、動詞faireとprendre、avoirを使う複合過去、êtreを使う複合過去、時の表現、疑問詞②、動詞vouloir、pouvoirとdevoir、比較級、最上級。</p>	
人間と哲学		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①「生」と「死」、「性」について多様で多面的な考え方を学ぶ。②授業毎のまとめ・質問・発表によって、自分の意見を論理的に伝えることを目指す。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション 哲学とは? 人間とは?、生命の哲学① 人間の生命と自然、生命の哲学② 命の教育 動画「にわとりを食べるまで」、生命の哲学③ 命の教育 動画「ブタがいた教室」、生命の哲学④ DVD 教材「終わりのない生命の物語」Ⅱ 第一巻と第二巻、生命の哲学⑤ 上掲第三巻と四巻、性の哲学① セクシャリティーとジェンダー LGBTIQ、性の哲学② 新しい生殖補助技術 人工授精 体外受精 代理母等、性の哲学③ クローン技術の問題点、死の哲学① プラトン エピキュロス、死の哲学② キケロ ショーベンハウエル、死の哲学③ キルケゴール バタイユ ハイデガー、死の哲学④ ヤスパーズ サルトル、死の哲学⑤ ニーチェ 手塚治虫、まとめ。</p>	

人間と倫理		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①倫理学の基本的考え方を理解する。②倫理学が直面してきた諸問題を理解し、自ら問題解決のための手段・方法を探る。③授業毎のまとめ・質問・発表によって、自分の意見を論理的に伝えることを目指す。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。この授業はオリエンテーションから始まり、チャップリン、ボルノー、ハイデガーの技術批判を学ぶ。倫理理論では、進化倫理学と長期エゴイズム、ベンサムとミルの功利主義、トロッコ問題とフォード Pinto 事件による功利主義批判、カントの義務倫理、徳倫理、ロールズの正義論、リベタリアニズムと文化多元主義、センのケイパビリティとサンデルの共同体主義を学ぶ。企業倫理とビジネス倫理では、CSRやコンプライアンス、内部告発と公益通報者保護法、個人情報保護法とマイナンバー法、男女雇用機会均等法、不正競争防止法、製造物責任法などを学び、最後にまとめを行う。</p>	
人間と歴史		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①宮崎を中心に南九州の歴史を学び、地域の歴史に関心を持てる。②基礎的な紀年法と歴史学の資料について学び、歴史的な見方ができる。③遺跡保存の現状を知り、課題の解決に向けて考える。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。紀年法－歴史を学ぶために一、九州南部の旧石器時代、文化財と文化財保護法、九州南部の縄文時代、上野原遺跡の特色、弥生時代の始まりをめぐる研究、稲作の誕生と伝来、墓制の変遷と古墳の始まり、九州南部の古墳時代、生目古墳群と地下式横穴墓、遺跡保存について、熊襲と隼人、日向国の成立と人々の生活、日向国の平安時代、宮崎県の設置と近代日本。</p>	
人間と文学		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①文学作品の読解を通して、多様な文章を読解する力を身につけること。②文学作品の読解を通して、より広い視野をもって社会を見渡せるようになること。③文学作品から見えてくる歴史的あるいは現代的な諸問題について、自ら思考し、自らの言葉で意見を提示できるようになること。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。この授業は、文学を読む意義から始まり、構造主義とテクスト論、ポスト構造主義とイデオロギー批評を学ぶ。日露戦後文学では夏目漱石の『坊っちゃん』、島崎藤村の『破戒』を取り上げる。大正デモクラシーと文学では、プロレタリア文学と葉山嘉樹の『セメント樽の中の手紙』を学ぶ。検閲と文学ではプロレタリア文学の衰退、太宰治の『待つ』と『トカントン』を考察する。さらに、学生運動と『W村上』、公害と石牟礼道子の『苦海浄土』、「1995年」の村上春樹とオウム・阪神大震災、宮崎の林業と平野啓一郎の『ある男』について学ぶ。</p>	
人間と社会		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。現代社会における政治・経済についての基本的な知識を培う。国際社会における日本の役割について着目し、論理的に主体的に考察できる力を養成する。戦後のブレトンウッズ体制以降の国際社会・国際経済にも考察を広げ、総合的に考える見識を培う。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。この授業は、東西冷戦時代とソ連崩壊後の世界を通じて民主政治の基本原則を学ぶことから始まる。次に、日本国憲法の自由権・社会権と新しい権利について学ぶ。続いて、日本の政治制度を55年体制とその後に分けて学習する。国際政治では、集団安全保障と国連における日本の役割を考察する。経済理論では、近代経済学と政治経済学を学び、日本経済について高度経済成長期と低成長期を学習する。最後に、国際経済におけるIMF、IBRD、GATT、WTOを学び、南北問題と先進国の役割について考察する。</p>	
人間と教育		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①様々な人間観にふれることによって、人間の多様な側面と教育の可能性を理解する。②教育（思想）が直面してきた諸問題を理解し、授業毎のまとめ・質問・発表によって、自分の意見を論理的に伝えることを目指す。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション（講義のねらい、内容、評価）、野生人研究と教育の課題① アマラとカマラ、野生人研究と教育の課題② アヴェロンンの森の野生人、野生人研究と教育の課題③ カスパー・ハウザー、出生形態からみた人間観と教育、人間学と教育① シェーラーの思想、人間学と教育② ポルトマン、人間学と教育③ プレスナー、人間学と教育④ ゲーレン、教育思想① コメニウス、教育思想② ルソーの思想、教育思想③ ルソーの「エミール」、教育思想④ ペスタロッチ、教育思想⑤ フレーベル ヘルバルト、まとめ。</p>	
人間と心理		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①心理学の基礎的な知識を身につける。②人間の心のさまざまなはたらきやしくみを理解し、人間理解を深める。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション、心と脳の関係、知覚のはたらき、学習のはたらき、記憶のはたらき、記憶の工夫、動機づけのはたらき、感情のはたらき、知的能力について、パーソナリティについて、集団の特殊性について、対人能力と対人認知について、自己理解について、人間の心理的発達、メンタルヘルスについて。</p>	

人間と環境		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。環境の変化には非人為的なものもあるが、人間活動によるものが多いことを理解できる。環境の保全には、森林の保全が非常に重要であることを理解できる。国内で起きた四大公害を中心とした公害とそれに伴う法規制の概略が説明できる。地球環境問題とはどのようなもので、その原因が何であるかを説明できる。環境に大きな負荷を与えず、持続可能な社会を構築するために、我々が何をなすべきを考え、実践できるようになる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。この授業では、人間を取り巻く環境問題を学ぶ。地球の気候変動、古代文明と森林の役割、地中海文明の変遷を学習する。出雲のたたら製鉄、襟裳岬、足尾銅山の公害事件を通じて森林の荒廃と復活を考察する。鉱工業の発展による四大公害、土呂久公害、アメリカの公害問題も学ぶ。さらに、水の汚染、大気汚染、地球温暖化、地下水枯渇、食糧不足と食品ロスの問題について考察する。</p>	
人間と科学		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。「科学とは何か」や「科学技術と科学・技術の違い」が説明できる。自然科学の重要な見方や考え方が理解できる。個々の自然科学の考え方が、その後に発展する新たな領域や自然科学以外の分野にも影響を及ぼしていることを理解できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。科学とは何か 科学と技術、授業に必要な数学入門Ⅰ 指数、対数、複素数とベクトル、授業に必要な数学入門Ⅱ 微分と積分の考え方、古代ギリシアの天文学（天動説）から地動説、ニュートン力学入門Ⅰ 運動の法則、ニュートン力学入門Ⅱ 自然落下運動と円運動、ニュートン力学入門Ⅲ 万有引力、原子と分子Ⅰ 原子論（古代ギリシアからドルトン）、原子と分子Ⅱ アボガドロの分子論と気体分子運動論、原子と分子Ⅲ アボガドロの法則とアボガドロ数、熱の科学Ⅰ 状態変化と熱エネルギー、熱の科学Ⅱ 熱機関と熱力学第二法則、熱の科学Ⅲ エントロピー、電気と磁気Ⅰ 電場と電位、電気と磁気Ⅱ 電流と磁気。</p>	
地域と文化		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。自身の出身地や居住地、関心のある土地にある「遺産」の存在とその価値を理解する。「遺産」を実際に利活用して、遺産を途絶えさせることなく次世代へ継承する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス（講義の受講方法、博物館の見学、実際の文化財の見学、レポート作成）、文化財とは何か、有形文化財、無形文化財、民俗文化財、天然記念物、文化的景観、伝統的建造物群、ユネスコの文化財保護政策、天然記念物と利活用、世界農業遺産を観光に活かす、アメリカの国立公園システム、学生の成果発表、学生の成果発表、まとめ。</p>	
異文化理解と国際交流		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①異文化理解や国際交流に関する基礎的な概念を身につけることができる。②異文化の相違に起因する様々な問題を、自らの経験と関連付けて考察できる。③今後の平和な社会の構築に向けて、自分の意見を論理的に述べることができる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション（授業の進め方、評価方法の説明）、異文化コミュニケーションの基礎概念、自己とアイデンティティ、異文化コミュニケーションの障壁、深層文化の探求、言語コミュニケーション、非言語コミュニケーション、カルチャーショックと適応のプロセス、対人コミュニケーション、異文化コミュニケーションの教育・訓練、異文化コミュニケーションの研究、国際援助機関、世界の貧困・南北問題、国際交流の現状、まとめ：新しい時代の国際交流。</p>	
現代社会と法A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①自分達の生活に身近な題材を通して現代社会と法とのかかわりについて興味をもって学んでいくことにより、法を身近なものとしてとらえることができるようになる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション（概要説明、アンケート）、刑罰と法（死刑制度について）、犯罪と法（正当防衛、緊急避難など）、犯罪と法（暴行罪、傷害罪、脅迫罪など）、経済活動と法（カルテル・談合、汚職の罪など）、労働と法（労働契約、賃金、労働時間など）、社会保障と法（健康保険制度など）、医療と法（医療機関、医療制度改革など）、財産と法（成年後見制度など）、財産と法（法律行為、時効など）、家族と法（親族の範囲、婚姻、離婚など）、基本的人権の保障（法の下での平等、表現の自由、学問の自由など）、国と地方公共団体（国会、内閣、裁判所など）、学校事故と法（学校での事故や体罰に伴う法的責任など）。まとめ。</p>	
現代社会と法B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①自分達の生活に身近な題材を通して現代社会と法とのかかわりについて興味をもって学んでいくことにより、法を身近なものとしてとらえることができるようになる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション（概要説明、アンケート）、刑罰と法（懲役刑、禁錮刑、罰金刑など）、犯罪と法（未遂、共犯など）、犯罪と法（窃盗罪、強盗罪、詐欺罪など）、経済活動と法（企業の違法行為に対する法的規制など）、労働と法（産前産後休業、育児時間など）、社会保障と法（生活保護制度など）、医療と法（医療過誤に伴う法的責任など）、財産と法（契約、不法行為など）、家族と法（親子関係、親権など）、家族と法（相続、遺言など）、基本的人権の保障（生存権、教育を受ける権利、労働基本権など）、国と地方公共団体（財政、地方自治など）、法解釈の方法（文理解釈、拡大解釈、縮小解釈、反対解釈など）。まとめ。</p>	

	現代社会と政治A		本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。 ①国家、権力、権威、立憲主義、民主主義、リベラル、保守など、政治(学)の基本的な言葉を理解し、説明できるようになる。 ②日常生活の中で政治現象を見出し、それを政治(学)の言葉を使って説明ないし体験できるようになる。 ③政治に関して自分の意見や立場を明確にし、今までよりも政治に前向きになれる。 授業計画は次の内容を含む。この授業では、政治の定義や近代国家、主権、国民国家を学ぶ。政治意識や市民革命の原理を探索し、自由主義、民主主義、社会主義の発展、独裁や全体主義も取り上げる。福祉国家の問題や現代の政治体制、アメリカ、イギリス、中国の政治制度を比較する。国会と立法、内閣と行政、政治参加と選挙、地方自治の仕組み、現代日本の政治動向と重要争点について考察する。	
	現代社会と政治B		本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。 ①主権国家、国際社会、ナショナリズム、帝国主義、世界大戦、冷戦、ポスト冷戦など、国際政治に関する基礎知識を獲得できる。 ②核兵器や地球環境問題、人権、武力紛争など、現代世界が直面する国際政治上の難問について理解できるようになる ③複雑な国際政治現象に関心をもち、国際政治関連のニュースを批判的に読み解くことができるようになる。 授業計画は次の内容を含む。国際政治学のススメ、主権国家の誕生、国際社会の成立と展開、二度の世界大戦、冷戦、ポスト冷戦、政治体制、対外政策決定と外交交渉、国連の役割、新しい戦争、国連PKO、人道的介入、平和構築、核兵器、人権と民主主義、グローバルイゼーション、地球環境問題	
	現代社会と経済A		本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。 ①人々の生活や企業の行動が経済構造のどこに位置するのか考える習慣づけができていくこと。 ②県民所得の向上という目標に対してどのような行動をとれば良いか説明できること。 ③私たちが属する地域社会の何が課題となっているのかを自ら探り、解決策を提案できるようになること。 授業計画は次の内容を含む。授業の心構えとガイダンス、現代社会と経済の登場人物、人口動態を学ぶ、人口減少がもたらす社会・経済への影響、宮崎県が直面する3つの格差(東京一極集中、九州内の東西格差・南北格差)、宮崎県経済の全体像、宮崎県経済の需要のしくみ、宮崎県経済の供給のしくみ、宮崎県経済の総生産(推移、全国シェア等)、宮崎県経済の分配(県民所得、最低賃金、生涯賃金等)、宮崎県経済における県際収支、宮崎県経済における稼ぐ力の方向性、宮崎県経済の主要な担い手(中小企業、地域金融等)、宮崎県中小企業の経営者は何を考えているか、まとめ。	
	現代社会と経済B		本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。 ①人々の生活や企業の行動が経済構造のどこに位置するのか考える習慣づけができていくこと。 ②県民所得の向上という目標に対してどのような行動をとれば良いか説明できること。 ③私たちが属する地域社会の何が課題となっているのかを自ら探り、解決策を提案できるようになること。 授業計画は次の内容を含む。この授業はガイダンスから始まり、「稼ぐ力を強くする10のポイント」を学ぶ。外貨を稼ぐための売り込みと呼び込みの意義と事例、置き換えの意義と事例について学ぶ。さらに、強みを伸ばすための農林水産業の現状と課題、弱みの克服、連携による可能性の拡大を探る。県外から所得を稼ぎ、労働分配率を高める方法、県外への資金流出を抑え、資金流入を図る方法、資産の有効活用、地域ブランドの向上、感染症や自然災害と地域経済の影響についても学び、最後にまとめを行う。	
スポーツ・健康	スポーツ総合		本科目の授業形態は実技/講義である。授業の到達目標は次の通りである。 ①生涯における、健康増進や体力向上を目的とし、スポーツを継続して行うこと、仲間とともに活動することで豊かな個性や人間性を身に付ける。 ②様々な競技種目の活動を通して、専門・得意な種目だけでなく未経験・不得意な種目に取り組むことで主体的に実践・行動する力を身に付ける。 授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション(授業の進め方、諸注意、準備物等)、体ほぐし運動(1)コーディネーショントレーニング、体ほぐし運動(2)利き手と非利き手、バレーボール(1) ルールの把握・基礎練習、バレーボール(2) ミニゲーム、バレーボール(3) ゲーム、バドミントン(1) ルールの把握・基礎練習、バドミントン(2) ミニゲーム、バドミントン(3) ゲーム、バスケットボール(1) ルールの把握・基礎練習、バスケットボール(2) 3×3、バスケットボール(3) 5×5、卓球(1) ルールの把握・基礎練習、卓球(1) ゲーム、まとめ。 (21 若松 朋也, 31 竹澤 恵菜) (共同)	共同 実技 24時間 講義 6時間
	日本語・日本事情A		本科目の授業形態は講義である。学習者が現代日本の諸事情についての理解を深めることを目標とする。そのために、日常生活や講義理解に必要な日本語能力を、場面や機能に応じて習得させる。日本事情のみならず、常に学習者自身の国の事情とを比較し、いろいろな視点から学習者の意見や考えを述べることにより、学習者の意欲を高めていく。 授業計画は次の内容を含む。日本の様々な文化や習慣、現代の社会で問題となっている多くの話題をとり上げ、日本文化を多面的に理解させる。日本語にみられる3つの文体、「論説体」「だ体」「です・ます体」の違いを理解させ、実際に使えるように練習する。各課でとり上げた話題について討論する。	
留学生社				

<p>へん科目</p>	<p>日本語・日本事情 B</p>		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。外来語が氾濫する中、カタカナ語が理解できなくてはコミュニケーションがとれない。短いニュースを読み、その中の外来語を学習していく。日常生活上の会話において擬音語・擬態語も頻繁に日本人は使い、表現を豊かにしている。学生がそれらを身に付け、実生活において、使いこなせるよう総合的に高める。 授業計画は次の内容を含む。短いニュースを読み、その文を理解し、暗唱する事により、自然に頭の中に残るように反復練習を行う。さまざまなトピックを読むことにより、総合的に学習する。</p>	
	<p>経営学総論 A</p>	<p>○</p>	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①経営学の歴史的な発展過程、及び現代社会において中心的役割を果たしている企業組織に焦点を当て、具体的な事例を踏まえた基礎的な諸理論について理解出来る。②「創業計画」の策定(演習)、優秀な「創業計画」の発表・講評を通じて経営学を学ぶ意義、及び経営者としての立場から経営学の基礎的な諸理論を理解出来る。授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、経営学を学ぶ意義、経営学とその学問の位置づけ、企業とは? 創業の意義、創業計画、中長期計画の立案、株式会社の特徴と仕組み、先輩学生の「創業計画」紹介、「創業計画」の策定(演習)、優秀な「創業計画」の発表・講評、経営学の発生、テイラーと科学的管理法、フォードとフォードシステム、ファヨールと管理過程論、メイヨーと人間関係論、まとめ。</p>	
	<p>経営学総論 B</p>	<p>○</p>	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①経営学の歴史的な発展過程を踏まえ現代社会において中心的役割を果たしている企業組織に焦点を当て、その基本構造や事業活動を巡る基礎的な諸理論について理解出来る。その際、初学者でも分かりやすいように具体的な事例を挙げながら、経営学の基礎的な諸理論の理解を踏まえて社会科学に対する深く“考える力”を習得する。 授業計画は以下の内容を含む。まずガイダンスがあり、その後行動科学と統合理論としてFollet, Likert, Argyllis, Maslow, McGregor, Herzbergの理論を学ぶ。次に近代管理論とコンティンジェンシー理論としてC. I. Barnardの組織論、Burns& Stalker, Woodward, Lawrence& Lorschの理論を扱う。さらに経営戦略論では発展の歴史の変遷や競争戦略、経営戦略の策定を学び、基本的な組織形態やさまざまな組織形態を学ぶ。最後に人事管理とリーダーシップ、日本的経営論、まとめを行う。</p>	
	<p>情報倫理</p>	<p>○</p>	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。「情報倫理」という言葉は、しばしばコンピュータやインターネットの倫理として議論されるが、情報の本来の意味を考えるとそれらの分野に限定されるものではない。新聞やテレビなどのメディア倫理、インフォームド・コンセントや診療記録の開示などに関連する医療倫理、また情報公開や内部告発などのビジネス倫理なども広く取り扱う。このような観点から、現代社会に引き起こされているさまざまな問題を取り上げ、学生が「他人事」ではなく「自分自身の問題」としてとらえられるようにすることを目的とする。これはグローバル化やDXの進展に伴う必須事項であり、幅広い判断力を養うための基礎となる。 授業計画にはネットワーク設定、MoodleやSNSの登録、パスワード管理、個人情報保護、フィッシング対策、ワンクリック詐欺、無線LANのリスク、公開鍵暗号、SNSの利用と危険性、ネット発言の取り消し難、著作権問題などが含まれる。</p>	
	<p>簿記論 I</p>		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 簿記の基本用語や複式簿記の基本的な仕組みを理解して、説明できるようになる。② 取引と勘定を理解でき、取引を仕分し、転記することができるようになる。③ 現金預金取引について、記帳処理ができるようになる。④ 分記法について理解し、記帳処理ができるようになる。⑤ 債権・債務の取引について、記帳処理ができるようになる。 授業計画には、以下の内容を含む。まず授業ガイダンスを行い、企業と簿記、取引と仕訳、元帳と転記、決算の仕組みを学ぶ。次に主要簿と補助簿、現金預金取引、小口現金取引の処理を扱う。さらに売買取引、その他の債権・債務の処理を学び、演習問題を通じて理解を深める。最後にまとめを行う。</p>	
	<p>簿記論 II</p>		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 開始手続から決算手続に至る簿記一巡の手続きを十分理解し記帳ができるようになる。② 決算手続きを十分理解でき、決算整理事項を記帳処理ができるようになる。③ 精算表を的確に作成することができるようになる。④ 決算資料をもとに財務諸表を的確に作成することができるようになる。⑤ 伝票会計について理解でき、正確な記帳処理ができるようになる。 授業計画は次の内容を含む。授業のガイダンス/株式の発行、剰余金の処理、その他の費用、貸倒れと貸倒引当金、固定資産と減価償却、試算表の作成、決算と決算整理、決算整理仕訳、精算表のしくみ、精算表の作成、財務諸表の作成、剰余金の配当と処分、法人税と消費税、3伝票制(入金、出金、振替伝票)、伝票の集計と転記、演習問題、まとめ。</p>	

上級簿記A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①ビジネス社会で求められる高度な簿記知識・簿記理論を習得する。②資産会計、負債会計、純資産会計などの貸借対照表科目について理解する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション、企業会計と財務諸表、現金・預金と保証債務、貸倒引当金、有価証券、有形固定資産、減損会計 1、資産除去債務 1、リース会計、負債、退職給付会計 1：負債会計の基礎知識、社債1、純資産 1：純資産の共給、商品、外貨換算会計、デリバティブ。</p>	
上級簿記B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①ビジネス社会で求められる高度な簿記知識・簿記理論を習得する。②損益会計、企業合併、連結会計、キャッシュ・フロー計算書について理解する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション、研究開発費とソフトウェア、会計上の変更と誤謬の訂正、企業結合、事業分離、連結会計 1：基礎知識、連結会計 2：連結会社間の取引、持分法、税効果会計、連結上の税効果会計、減損会計 2：のれんと共有資産の減損、資産除去債務 2：除去費用の見積りの変更、退職給付会計 2：過去勤務費用と数理計算上の差異、社債 2：買入償還、純資産 2：ストックオプション、キャッシュ・フロー計算書。</p>	
ミクロ経済学Ⅰ	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。需要曲線と供給曲線について理解し、価格決定のメカニズムを説明できる。需要の価格弾力性について説明でき、価格の変化が支払額へ与える影響を分析できる。効用関数と予算制約線から最適な消費行動を図示できる。価格や所得の変化から財の需要量へ与える影響を説明できる。企業の費用構造からAC、AVC、MCを導出し、利潤の最大化条件を説明できる。完全競争市場の定義を理解し、総余剰の概念を用いて市場の効率性を説明できる。財に対して課税を行ったときの市場の効率性を説明できる。</p> <p>授業計画には、ミクロ経済学の授業ガイダンス、グラフの見方、需要曲線、供給曲線、市場均衡、需要の価格弾力性を含む。消費者行動では、効用関数、無差別曲線、予算制約、機会費用、最適消費点、価格・所得変化の影響を学ぶ。復習と中間課題の後、企業行動として費用関数、利潤最大化、独占企業行動を扱う。余剰分析では市場効率性、課税の影響、自由貿易の効率性を学び、最後にまとめる。</p>	
ミクロ経済学Ⅱ	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。独占企業の最適生産量と市場で発生する死荷重を説明できる。寡占市場の特性について理解し、クールノーモデルの解を導出できる。外部性が発生している市場での余剰分析を行い、市場で発生する非効率性を説明できる。一般均衡分析について理解し、厚生経済学の第一基本定理について説明できる。公共財の性質について理解し、公共財供給が市場の失敗を招く理由を説明できる。期待効用理論について理解し、不確実性下での合理的な意思決定を導ける。ナッシュ均衡を理解し、囚人のジレンマの状況を説明できる。</p> <p>授業計画には、次の内容を含む。ガイダンスとミクロ経済Ⅰの復習、企業の費用関数、利潤最大化行動（完全競争市場、独占市場）、独占市場と余剰分析、寡占市場とクールノー競争、外部経済・外部不経済とビグー税、復習と中間課題、純粋交換経済と一般均衡分析、厚生経済学の第一基本定理、公共財、期待効用理論、逆選択とモラルハザード、ゲーム理論、まとめ。</p>	
マクロ経済学Ⅰ	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① さまざまな経済統計量について理解する。② 乗数理論について、理論が前提とする条件とそれから導かれる結論について理解する。③ IS-LM理論について、理論が前提とする条件とそれから導かれる結論について理解する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。マクロ経済学とは、経済統計量について GDP等、物価指数、産業連関表、大恐慌とケインズ経済学、所得と消費の分析（乗数理論）、財政政策（乗数理論）、貨幣、貨幣と利子率、利子率を考慮した場合の所得と消費の分析（IS-LM理論）、財政政策（IS-LM理論）、公債残高の資産効果、ハイパワードマネーと信用創造、金融政策（IS-LM理論）、金融市場の変化、講義の内容復習。</p>	
マクロ経済学Ⅱ	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① AD-AS理論について、理論が前提とする条件とそれから導かれる結論について理解する。② 為替レートのモデルについて、閉鎖経済と比べてときに開放経済では政策が与える影響がどのように変化するか理解する。③ 経済成長や経済循環についての様々な理論について理解する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。企業の労働需要、労働者の労働供給、労働投入を考慮した場合の所得と消費の分析（AD-AS理論）、財政・金融政策、インフレ供給曲線とインフレ需要曲線、インフレーションと財政・金融政策、国際収支と為替レート、為替レートと財政・金融政策、経済の国際移動、経済成長モデル、経済成長と貯蓄、投資、マクロ・ダイナミクス、中立命題とマクロ政策の有効性、マクロ経済政策と政策当局、講義の内容復習。</p>	

統計学Ⅰ	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① さまざまな統計データについて、それらを図表などにより記述する手法と基本的な統計量について理解する。② 統計データを分析する際に用いる数学的手法を理解する。③ さまざまな観測対象について、そこから得られるデータがどのような確率分布をもたらすのか理解する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。データ分析の準備、1変数のグラフ、1変数の統計量、分散・標準偏差、散布図と分割表、相関係数、共分散、回帰分析、順列と組み合わせ、確率事象の図表化、一様分布、二項分布、ポアソン分布、正規分布、講義の内容復習。</p>	
統計学Ⅱ	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① どのような観測対象から得られるデータがt分布に従う確率分布をとるか理解する。② t分布を用いてさまざまな推定を行う手法を理解する。③ t分布を用いてさまざまな検定を行う手法を理解する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。さまざまな確率分布、中心極限定理、標準正規分布と数表、t分布と数表、母集団と標本、母集団の区間推定、母比率の区間推定、仮説の検定、母平均の検定、母比率の検定、2つの母平均の差の検定、2つの母比率の差の検定、χ^2分布、χ^2分布を用いた推定、講義の内容復習。</p>	
基礎数学Ⅰ	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 微分法を用いて制約付き最大化問題を解決することができる。② ①の解法で用いる基礎的な数学計算を実行できる。③ 需要および供給関数を具体的に計算することにより、市場メカニズムに従う消費者および生産者の行動について理解できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。授業の目標について、数学の基礎公式（文字式・指数法則・展開・因数分解）、グラフの傾きと微分、3次関数の微分公式、最大最小問題の解法、最大最小問題の例題、市場の規則と予算制約、需要関数の計算、供給関数の計算、市場均衡の計算、市場の効率性、市場の失敗、ワルラス法則と三面等価、発展問題、講義の内容復習。</p>	
基礎数学Ⅱ	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。多変数関数の微分法を活用することができる。上記の手法で用いる基礎的な数学計算を実行できる。多期間の消費決定問題を具体的に計算することにより、消費者が選択する消費と貯蓄の関係について理解できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。授業の目標について、微分（多項式）、合成関数・逆関数の微分法、ネピア定数、指数関数の微分、対数関数の微分、高階の導関数と1変数関数の凹凸について、偏微分と全微分、多変数関数の等高線・境界代替率、多期間の効用最大化問題、オイラー方程式、行列計算の基礎、多変数関数の凹凸について、ラグランジュの未定乗数法、講義の内容復習。</p>	
プログラミング基礎Ⅰ	○	<p>本科目の授業形態は実習/講義である。授業の到達目標は次の通りである。情報システムのプログラミングについて体系的・系統的に理解し、関連する技術を身につける。プログラミングの学習を通して、コンピュータの仕組みについて理解を深める。プログラミング言語Pythonを用いて簡単なプログラムを作成できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。イントロ、Jupyter Notebookの使い方、変数の取り扱い、いろんな組み込み型、演算、インポート、mathモジュール、乱数を使用する、プログラムの処理を分岐、IF文、処理を繰り返す（for文）関数（ユーザ定義関数）、ループを活用する、例外の処理、名前空間、問題演習①、文字列を活用する、リストタプルを活用する、問題演習②、辞書と集合の操作、オリジナル関数を作成する、テキストファイルの読み書き、問題演習③、総合演習。</p>	<p>実習 16時間 講義 14時間</p>
プログラミング基礎Ⅱ	○	<p>本科目の授業形態は実習/講義である。授業の到達目標は次の通りである。①Python 言語で データ収集 データ整形・加工の文法を記述することができる。②Python 言語で オンラインデータを活用したプログラムを記述することができる。③Python 言語で簡単なデータ分析が行えるようになる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション、PAD (パド) ソフトウェア設計、PAD (パド) の説明、リスト、一次元配列、二次元配列、ユーザ定義関数、関数の引数、変数のスコープ、プログラムによるオープンデータの活用、辞書、Numpy 1 概要、データを扱う、Numpy 2 各機能、Pandas 1 概要、データの読み込み、書き込み、データの整形、時系列データ、基礎数学、統計学の基礎、Pandas 2 欠損値処理、データ連結、統計データの扱い、Matplotlib 1 概要、描画オブジェクト、グラフの種類と出力方法、Matplotlib 1 スタイル、pandasのオブジェクトから、Scikit-learn 1 前処理、分類、Scikit-learn 2 回帰、次元削減、総合演習。</p>	<p>実習 16時間 講義 14時間</p>
プログラミング演習Ⅰ	○	<p>本科目の授業形態は実習/講義である。授業の到達目標は次の通りである。① プログラムの概念と働きが理解できる。② Python言語の開発環境が利用できる。③ Python言語の文法が理解でき、基礎的なプログラムが作成できる。④ Pythonプログラム開発の過程において、適切なテストデータを作成でき、またエラー発生時には自力でデバッグすることができる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、授業の目的と意義、開発環境の準備、データサイエンスとPython、変数と定数、演算子、順次処理、分岐処理、反復処理、リスト、メソッド、例外処理、内包表記、ファイル入出力、文字列操作、オブジェクト指向の概念、クラス、標準ライブラリ、関数の基本、Pythonと線形代数、Pythonと基礎解析、Pythonと確率・統計、演習問題。</p>	<p>実習 16時間 講義 14時間</p>

プログラミング演習Ⅱ	○	<p>本科目の授業形態は実習／講義である。授業の到達目標は次の通りである。① データサイエンスに必要な概念と基礎となる周辺知識との関連が理解できる。② Python言語により各種データの取得・加工を行うプログラムが作成できる。③ Python言語により基本的な可視化を行うプログラムが作成できる。④ 機械学習のための基本的なプログラミング技法が理解できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、ライブラリによる分析、Numpy、pandas、データの整形、時系列データ、統計データの扱い、Matplotlib、scikit-learn、前処理、分類、回帰、次元削減、モデルの評価、クラスタリング、自然言語処理、画像データの処理、演習問題。</p>	<p>実習 16時間 講義 14時間</p>
数学ステップアップ講座A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①微分の意味と微分係数の定義を理解し、微分の公式が記述でき、導関数が導ける。②ベクトル、行列の計算ができる。③正規分布によって推定ができる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。数と式、の意味。直線と一次関数、放物線と二次関数、微分とは。微分係数の定義と導関数、3次関数の極大値、極小値、指数と対数、指数関数と対数関数の微分、練習問題、ベクトルと図形、ベクトルの計算、ベクトルの大きさ、空間ベクトルと内積、行列について。行列の計算規則、行列式と連立方程式、練習問題、平均、分散、標準偏差、正規分布、標本平均の分布と母平均の推定</p>	
数学ステップアップ講座B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①微分の応用ができる。②不定積分、定積分の計算ができる。③場合の数の計算ができる。④確率の計算ができる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。逆関数、合成関数の微分、練習問題（微分の応用）、不定積分の定義と公式、練習問題（積分）、定積分と面積、定積分の置換積分法と部分積分法、練習問題（定積分）、集合の演算、ド・モルガンの法則、場合の数の順列、組合せ、練習問題（順列、組合せ）、確率の定義と公式、練習問題（確率）、事象の独立性、条件付確率、二項分布と正規分布、まとめ。</p>	
企業論A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①企業の意味および企業形態について理解する。②企業、特に株式会社の現実について理解する。③企業の意味およびその果たすべき役割について理解する。④コーポレート・ガバナンスの意味およびその役割について理解する。</p> <p>授業計画には以下の内容を含む。まず企業の意味および種類について学び、個人企業、合名会社、合資会社、株式会社、有限会社の各形態の展開を扱う。新会社法施行後の有限会社についても学び、企業形態のまとめを行う。次に株式会社の現実について、普及状況、株式公開と上場制度、株主総会と株主構造、経営機関と専門経営者、経営者支配の進展、株式の分散・集中と支配構造の変化を学ぶ。さらにコーポレート・ガバナンス論の台頭を問題提起し、アメリカ、日本、欧州（ドイツ、イギリス、フランス）におけるコーポレート・ガバナンス改革を学ぶ。最後にまとめを行う。</p>	
企業論B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①企業の意味および企業形態について理解する。②結合企業形態について理解する。③企業の意味およびその果たすべき役割について理解する。④NPO(非営利組織)やベンチャー・ビジネスについて理解する。</p> <p>授業計画には以下の内容を含む。まず企業形態の展開として、企業の意味および種類、諸企業形態の比較を学ぶ。次に結合企業形態として、結合企業形態の諸類型、業界協定、取引系列、M&Aの定義・種類・目的、日米におけるM&A、敵対的M&Aへの防衛策、企業集団の定義・種類、6大企業集団メンバー企業間の関係とその変容を扱う。さらに公企業について、定義・性格・種類、政府公企業、地方公企業を学ぶ。非営利組織(NPO)の定義・成立条件・特徴、存在意義、企業との関係についても扱う。最後にベンチャー・ビジネスの定義と特徴、日米における発展を学び、まとめを行う。</p>	
国際経営論		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①国際経営を理解するための基本知識(主要な経営学説、知識・技術・イノベーション、会計財務、人的資源、行政と国際化など)を学び、国際的視野(人間性・教養・国際性)を身に付けることになる。②また、経済のグローバル化の拡大、経済のダイナミズムを新興工業国を例に考察することにより、解決・改善に向けて主体的に対応する力(課題発見力・問題設定力・思考力・ソリューション提案力)を涵養する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。国際化の進展と日本、多国籍企業の参入形態、多国籍企業の経営学説、多国籍企業の参入戦略、多国籍企業と知識・技術・イノベーション、移転価格、国際経営と外国為替レート、国際経営とリスクリアル・オプションと投資の意思決定、資金調達と国際化、会計の国際化、産業空洞化と産業集積、人材の国際化と地域特性、日本的人的資源管理と国際化、国際人の育成、行政と国際経営</p>	

経営管理論 A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①経営学における主要な柱である経営管理論の歴史的な発展過程を踏まえ、企業組織を中心とした経営管理を巡る基礎的な諸理論について理解出来る。②経営管理論における基礎的な諸理論の理解を踏まえて、社会科学に対する深く“考える力”を習得する。授業計画には以下の内容を含む。ガイダンス、経営の誕生と経営管理の生成、経営管理の歴史的変遷（近代企業の生成、所有と支配の分離、財閥の形成と解体、横の企業集団の生成、M&Aと組織能力）。次に組織のデザイン（C. I. Barnardの組織論、機能別組織、事業部制組織、マトリックス組織等）、経営戦略論（発展の歴史変遷、今日の理論、競争戦略、グローバル戦略、経済合理性と社会性の融合）。最後に経営資源の管理（伝統的な資源管理、情報資源、組織能力、知識資源とイノベーション）を学び、まとめを行う。</p>	
経営管理論 B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①経営学における主要な柱である経営管理論の歴史的な発展過程を踏まえ、企業組織を中心とした経営管理を巡る基礎的な諸理論について理解出来る。②経営管理論における基礎的な諸理論の理解を踏まえて、社会科学に対する深く“考える力”を習得する。授業計画には以下の内容を含む。まずガイダンスを行い、次に組織間関係の管理としてR. H. CoaseとO. E. Williamsonの取引コスト理論、戦略的提携、デファクト・スタンダード、ネットワーク外部性、プラットフォーム・リーダーシップの理論と事例を学ぶ。続いて、モチベーションと組織活性化について、人間関係論、動機づけ理論、組織均衡論を学ぶ。日本の経営管理に関しては、歴史の変遷、三種の神器、J. C. Abegglenの理論、JIT、QCサークル、TQMを扱う。最後に賃金管理の歴史の変遷と成果主義賃金、最新の導入事例、CSRと経営倫理を学び、まとめを行う。</p>	
人的資源管理論 A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①「人事・労務管理」を学び、人間性と知性を磨く。②日本の経営の特徴である「終身雇用」「年功序列」が変容している現状を理解し、現代の人事管理の課題を見つけ、解決に向けて主体的に対応する力を養う。授業計画は次の通りである。人的資源管理の概要、人事管理の概念、労働市場、雇用と賃金の決定を学ぶ。次に人事管理の歴史、キャリア管理、異動・昇進、定年制、賃金、労働時間、人事考課を扱う。さらに国際比較、海外派遣、現地化、双方向化を学び、今後の人事管理についてまとめる。</p>	
人的資源管理論 B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①「企業は人なり」といわれるように、企業経営においてもっとも重要な役割を果たす「人の管理」つまり「人事・労務管理」を学び、人間性、深い知性・教養に磨きをかける。②わが国には、従来から日本の経営の特徴として「最終雇用」「年功序列」があり、これまでその特徴を生かした経営管理が行われてきた。ところが昨今、経営環境の変化やグローバル経営の広がりなどにより、これら日本の人事管理が変容を余儀なくされており、そのことを理解することで、現代の人事管理における課題を見つけ、解決・改善に向けて主体的に対応する力(課題発見力・問題設定力・対応力)を発揮できるようにする。授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、人事労務の法律、求人・採用、労働契約、賃金、労働時間、異動・配転・出向、退職・解雇、労働災害、安全衛生、労働組合・労使紛争、多様化する雇用形態（パート、派遣、契約社員、外国人労働者）、人事労務の課題。</p>	
財務管理論 A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①企業財務に関する諸理論およびその意義について理解する。②投資に関する諸理論およびその意義について理解する。③資本市場に関する諸理論およびその意義について理解する。授業計画には次の内容を含む。まず、財務管理の基礎として財務管理論、企業の財務意思決定、基本概念、投資のリターンとリスクを学ぶ。次にポートフォリオ理論について、ポートフォリオの概念、分散投資の効果、期待値・標準偏差分析、相関係数と投資比率、効率的フロンティア、最適ポートフォリオ、マーコビッツのポートフォリオ選択論、トービンの分離定理を扱う。続いて資本市場理論として、シャープ理論と資本資産評価モデルを学び、効率市場仮説とその検定例（ウィーク型、セミストロング型、ストロング型）、市場アノマリーの存在とその継続性、新しい投資理論の展開を学ぶ。最後にまとめを行う。</p>	
財務管理論 B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①企業財務に関する諸理論およびその意義について理解する。②投資に関する諸理論およびその意義について理解する。③資本市場に関する諸理論およびその意義について理解する。授業計画には以下の内容を含む。まず企業の財務意思決定、資本予算、資本コスト、資本構成、配当政策の概説を行う。次に資本予算について、その重要性・役割、投資決定の諸方法（回収期間法、正味現在価値法、内部収益率法）と3方法の比較を学ぶ。続いて企業の資本調達源泉と資本コストの諸形態、定義、個別資本コスト、加重平均資本コストを扱う。次に資本構成について、最適資本構成とその諸理論、伝統的見解とモジリアーニ＝ミラー(MM)理論、レバレッジの影響を学ぶ。最後に配当政策の概要、株価との関係、残余配当政策、日米企業の配当政策の比較を行い、まとめを行う。</p>	

商学概論 A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。流通に関する具体的なケースを概観しながら、そこに内在する問題を発見し、そこから理論を考える手がかりを発見できるようにする。流通というものの全体像を把握し、現実に行き起きている流通に関する出来事（たとえば、都市型ミニスーパーの誕生や、コンビニとメーカーの共同開発など）を流通論の視点から分析できるようにする。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。流通の基本的な仕組みについて、基本的な機能と経路、日本の流通の問題点を学ぶ。小売業の仕組みと役割として、小売業の機能と種類を理解し、流通経路の必要性と役割、流通系列化、変化する流通経路政策を学ぶ。商業集積の論理、卸売業と物流システムについては、卸売業の機能と種類、リテールサービス、物的流通とロジスティクスを扱う。流通の実務では、マーチャングデザイン、カテゴリーマネジメント、販売促進の役割と手法を学び、流通に関する規制や法律、流通と情報化についても学ぶ。最後にまとめを行う。</p>	
商学概論 B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。流通構造と小売業の社会・経済における役割と機能を理解する。小売業者の市場における行動をその事業形態と小売競争枠組みを検討することを通じて理解する小売競争理論と小売マーケティングミックスを理解することにより、小売市場におけるビジネス競争・戦略活動をマネジメントできる基礎を身に付ける。小売ビジネスと消費者心理の関係について理解する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。小売業態論、顧客維持手法（フリークエントショッパーズプログラム）、顧客ロイヤリティとリレーションマーケティング、小売業とブランド、ソリューションセリング、ネットショッピングの現状と将来、デパート、スーパーマーケット、コンビニ、専門量販店の課題と将来、エンターテインメントとオムニチャネル戦略、情報化社会での小売業戦略、小売業の国際化、まとめ。</p>	
マーケティング論 A	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①より高度なマーケティング科目への導入講義と位置づけ、マーケティングに関する基礎的な知識を習得する。②マーケティングの基本的なテンプレートについて理解できる。③マーケティングの4Pをしっかりと理解でき、自分たちで活用することができるようになる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンスとしてマーケティングの基礎を紹介し、市場分析手法について基本および応用的なフレームワークを学ぶ。競合分析手法では競合を分析し自社を省みる方法を学び、顧客分析手法としてセグメンテーションや顧客心理に訴求するアプローチを扱う。マーケティングミックスではシーズとニーズの探り方、製品開発戦略、企業の価格政策、心理的要因に作用する価格政策、プロモーション戦略、人的販売とパブリシティ、広告媒体と広告表現、流通戦略の歴史と手法、わが国の流通構造、新しい流通形態の紹介を行う。最後にまとめを行う。</p>	
マーケティング論 B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①マーケティングの基本的な知識を持ってより応用的なレベルで理解できる。②消費者の心理的要因と企業の実践するマーケティングの整合性をきちんと理解できる。③②について自分たちで実践することができる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。顧客志向のマーケティングの意義について学び、消費者行動分析の手法として情報処理行動、顧客価値の創造、購買意思決定を扱う。マーケットリサーチの基本として調査法の種類と実践方法を学び、ブランドマーケティング戦略ではブランディングの基本概念と製品差別化について学ぶ。カスタマーコンピタンスの考え方やe-CRMなどのウェブマーケティング戦略も取り上げる。グループワークでは売れる仕組みを考えるための概要説明、フィールドワーク、グループ別発表を行い、最後にまとめを行う。</p>	
経営シミュレーション	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。企業経営における情報収集・整理の重要性、マーケティング課題へのアプローチ方法について理解する。マーケティングリサーチの調査手法、対象者抽出、データ収集など、データ作成技術を理解する。仮説検証に用いるデータ解析の諸技法（マーケティングリサーチで得た結果の解析に必要な知識）を理解する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション、マーケティングリサーチの基礎：データの種類、マーケティングリサーチの基礎：リサーチの技法、STPとマーケティングリサーチ：セグメンテーション、STPとマーケティングリサーチ：」ターゲティング、STPとマーケティングリサーチ：ポジショニング、ケーススタディ：新たなターゲティング手法事例、ケーススタディ：ポジショニングマップの作成法、相関分析、因子分析、回帰分析、グループワーク：質問票の作成、グループワーク：」データ分析、グループワーク：マーケティング戦略立案、プレゼンテーション。</p>	

生産管理論 A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①日本の製造業の生産管理が世界最高水準を確保していた時代から劣化している現状を把握し、グローバル化及びデジタル化が急速に進展する21世紀における製造業的観点からの国際的視野とあるべき態度(人間性・教養・国際的視野)を理解する。②また、日本の製造業の現状と課題を踏まえ、日本産業再生へ向かって、その課題解決・改善に向けて主体的に対応する力(課題発見力・問題設定力・思考力・ソリューション提案力)を涵養する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、生産とは、生産管理とは、生産計画、生産統制、需要予測、製品計画(研究開発、製品企画、製品設計、新製品開発、製品ライフサイクル、多品種化)。資材管理(対象、購買・外注業務、検収、保管、運搬業務)。設備管理(機械化、生産手段、保全活動、合理化、取り替え問題、レイアウト)。品質管理(歴史、品質、品質コスト、統計的品質管理、QCストーリー、ISO9000、製造物責任)。最後にまとめを行う。</p>	
生産管理論 B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①世界最先端のDX先進事例を学習することで、DXを中心とする国際的視野を身に付け、日本におけるDXの方向性を理解する。②工場及び製造業の業務や仕組みと併せて、IT、IoT、AI、RPAについての理解を深めると同時に、製造業にとって重要なポイントである自社のパフォーマンスの向上、自社製品・サービスの付加価値向上、新たなビジネスの創出について習得することで、グローバル化や情報化の更なる進展に伴うDX(デジタル・トランスフォーメーション)等の新たな時代変革に対応できるようになる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、工場経営のQCD管理、生産形態の分類、製品ライフサイクル管理、CAD・CAMなどの設計支援、サプライチェーン管理、かんばん方式、品質改善活動、原価管理、IoTの活用、AI・ビッグデータ・RPAによる業務効率化、製造業のグローバル戦略、まとめ。</p>	
経営組織論 A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は、経営組織論における「C. I. Barnardの組織論」「組織と組織理論」「戦略、組織設計、有効性」「組織構造の基本」等を主要なテーマとして基礎理論と経営実態の把握に関する考察能力の習得である。授業の進め方としては、出席している学生に教科書の指定箇所を音読(2~3頁/人)してもらい、その後詳細な解説を行う。毎回の授業におけるテキスト輪読、及び課題レポートの提出を踏まえて、経営組織理論の基礎理論と経営実態に関する理解度の確認と考察能力の習得を行う。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンスを行い、C. I. Barnardの組織論について学ぶ。具体的には、協働システム、公式組織と個人の関係、構造と過程、非公式組織、道徳的制度とリーダーシップを学ぶ。次に、組織と組織理論として、組織の定義、設計、歴史の変遷、組織戦略と構造、有効性を学ぶ。さらに、垂直・水平構造、機能別・事業別・地域別構造、マトリックス構造を学び、最後にまとめを行う。</p>	隔年
経営組織論 B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①本授業の到達目標は、経営組織論における「外部環境と組織の関係」「製造業とサービス業の組織」「組織の規模、ライフサイクル、コントロール」「組織文化と倫理的価値観」「イノベーションと変革」「意思決定プロセス」「コンフリクト、力、政治」等を主要なテーマとして基礎理論と経営実態の把握に関する考察能力の習得です。授業の進め方としては、出席している学生に教科書の指定箇所を音読(2~3頁/人)してもらい、その後詳細な解説を行う。②毎回の授業におけるテキスト輪読、及び課題レポートの提出を踏まえて、経営組織理論の基礎理論と経営実態に関する理解度の確認と考察能力の習得を行う。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、外部環境と組織の関係、製造業とサービス業の組織、組織の規模とライフサイクル、組織の文化と倫理的価値観、イノベーションと変革、意思決定のプロセス、コンフリクトと政治、まとめ。</p>	隔年
経営戦略論 A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。経営戦略の理論と実践の融合の考え方について理解できる・行動できる。経営戦略における基礎的なテンプレート及び専門用語を理解できる。代表的な企業の主な経営戦略について理解できる。</p> <p>授業計画には次の内容を含む。経営戦略の概念として戦略の必要性和身近な例を通じた理解、理論体系として戦略計画、ポジショニングビュー、創発戦略、RBVの概要を学ぶ。SWOT分析、5フォース分析、自社分析などの環境分析手法を扱う。全社戦略策定として経営理念、ビジョン、目標設定方法、ビジネスモデル設定を学ぶ。事業戦略策定として市場・顧客戦略、商品・サービス戦略、多角化戦略としてM&A、垂直・水平統合、アライアンスを学ぶ。</p>	

経営戦略論B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。経営戦略の策定プロセス全体を理解できる。企業事例を参考に企業の具体的な経営戦略の実行を理解できる。最新の経営戦略のテンプレートを理解できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。機能別戦略の概要、コストリーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略とニッチ戦略、競争優位性の構築（リーダー、フォロワー、チャレンジャー、ニッチャー）、情報システムと経営戦略の関係、システムを用いた生産管理・販売管理、新しい経営戦略フレームワーク（ブルーオーシャン戦略、ナレッジマネジメント、カスタマーリレーションシップマネジメント、オープンサービスイノベーション）、財務指標・非財務指標を用いた業績測定手法、ケーススタディ（概要説明・チームディスカッション、個人研究発表）。</p>	
農業経営論 A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①世界の食料と農業情勢を理解する。②農業構造の変化と政策との関連性を認識する。③持続可能な農業と進化する農業経営の実践事例を習得する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。世界の食料事情と農業、食料安全保障と食料自給率、日本農業の構造変化と農業政策の変遷、宮崎県農業の多様な経営体（水田農業、施設・露地園芸、畜産、中山間）、農業組織論と営農類型別農業経営、地域を支える世界の協同組合とICA、農業者が組織する協同組合の組織と事業、農業者が組織する組織体の活動、農業労働力の構造変化と外国人労働力、営農類型別農業経営の分析検証（畜産）、営農類型別農業経営の分析検証（園芸他）、G7農業大臣会合と宮崎宣言、食料・農業・農村基本法の理念、農業の持つ多面的機能、EU・オランダ農業事情。</p>	
農業経営論 B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①世界の農業と日本農業、そして宮崎農業の現状を正確に認識する。②農業経営における先進的实践事例から経営改善の着眼点を学ぶ。③宮崎農業の課題とその改善・進化の方向性の仮説を構築。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。食料安全保障と世界の農業、グローバル化とWTO・FTA・TPP、海外の農業（中国・アメリカ）、海外の農業（オーストラリア・ブラジル）、海外の農業（オランダ・EU）、海外の農業（アジア諸国）、オランダ農業の講演 WAGENINGEN UNIVERSITY、宮崎県農業の構造と県農業長期振興計画、宮崎方式営農支援体制と農業経営分析、宮崎県農業経営の実践リーダーの講演、日本農業の先進事例（映像授業）、地域に根ざした大規模農業経営の講演、仮説議論（私が考察する農業経営改善策）、食料・農業・農村と地域経済、まとめ。</p>	
経営史		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①欧米における各産業の企業経営発展の歴史および経営戦略等を学び、理解する。②①に基づいて企業経営のあるべき姿について考え、理解する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。欧米における企業経営発展の概説を行い、アメリカの企業経営の発展を詳細に学ぶ。まず交通・輸送機関の発展（運河・鉄道）について、次に鉄鋼業の歴史とカーネギーの経営戦略、石油産業の歴史とロックフェラーの戦略、化学産業の歴史とデュボン社の多角化、自動車産業の歴史とフォード社、GM社の戦略を学ぶ。さらに電気機器産業の歴史とGE社の経営戦略、IT産業の歴史とIBM、インテル、マイクロソフトの発展を扱う。最後にまとめを行う。</p>	
エコビジネス		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。環境法規、環境経済学、環境ビジネス・環境経営等に関する基本的知識を理解し、環境保全・保護の視点から現在の社会・経済状況を理解できるようになる。企業による様々な環境対応への取組の知識と理解を深める。その上で、今後の政治・経済や企業経営の方向性を自ら批判的に考察できるようになる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。「エコノミー（経済）」と「エコロジー（地球環境）」の概説、環境問題と法律（グリーン化、条約／議定書）、エコビジネス成長の背景とSDGs、環境経済学（経済的手法、税のグリーン化）、環境経営（環境管理システムEMS、ESG）、環境ビジネス（技術系：再資源化、新エネルギー、エコプロダクツ・環境保全・修復）、環境ビジネス（人文／ソフト系：金融・コンサルティング、ESG投資、広告・ツーリズム、教育・サービスデザイン）のまとめ。</p>	
経営情報論 I	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 情報技術の発展が企業の経営活動を変容させ、コンピュータやインターネットなどがビジネスの競争に多大な影響を及ぼしていることが理解でき、今日のAI（人工知能）やXR（仮想現実・拡張現実）、DX（デジタルトランスフォーメーション）などが企業経営と密接な関わりを持っていることを説明できる。② 最新の情報技術が様々な業界や企業経営に大きな影響を与えていることについて、講義内容を理解し、経営情報や経営情報システムに関する文献・記事等を検索・調査でき、自分の考えを整理して報告することができる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、経営情報論とは、経営情報システムの歴史、経営戦略論の発展、流通と情報システム、製造業と情報システム、情報システムの役割、インターネットとモバイル端末、イノベーション、プラットフォームとコンテンツビジネス、技術（情報検索・SNS・ユーザ参加）、問題点、まとめ。</p>	

経営情報論Ⅱ	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 情報技術の発展が企業の経営活動を変容させ、コンピュータやインターネットなどがビジネスの競争に多大な影響を及ぼしていることが理解でき、今日の高度な情報技術の原理や経営との結びつきを説明できる。さらに、経営情報システムの設計・開発の内容や問題点が理解できる。② 最新の情報技術が様々な業界や企業経営に大きな影響を与えていることについて、光と影の両面を理解し、経営情報や経営情報システムに関する文献・記事等を検索・調査でき、自分の考えを整理して報告することができる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、経営情報とICTの発展、データベース、ネットワーク・コンピューティング、AI・機械学習、仮想現実・拡張現実、ネットビジネス、DX、ビジネスインテリジェンス、データサイエンティストの役割、経営情報システムの設計・開発、ICT社会の負の側面、未来の経営情報論、まとめ。</p>	
会計学Ⅰ		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①ビジネスの必須知識である会計学の基本構造（損益計算書を中心に）を理解する。②今後の会計上級科目への知識基盤を作る。授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション：会計とは何か、会計の役割<1>財務会計と管理会計、会計の役割<2>企業会計への法規制、利益計算の仕組み<1>複式簿記の構造、利益計算の仕組み<2>利益計算と財務諸表、利益計算の仕組み<3>財務諸表の体系、利益計算のルール<1>会計公準、利益計算のルール<2>企業会計原則一般原則、利益計算のルール<3>損益計算書原則、利益計算のルール<4>貸借対照表原則、売上高と売上債権<1>営業循環における収益の認識、売上高と売上債権<2>収益認識基準の適用、棚卸資産と売上原価<1>取得原価と原価配分、棚卸資産と売上原価<2>期末評価、まとめ。</p>	
会計学Ⅱ		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①ビジネスの必須知識である会計学の基本構造（貸借対照表を中心に）を理解する。②今後の会計上級科目への知識基盤を作る。授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション：現代会計の考え方、固定資産と減価償却<1>取得原価と減価配分（減価償却）、固定資産と減価償却<2>減損会計、繰延資産の会計、金融活動の資産と損益<1>有価証券の取得と売却、金融活動の資産と損益<2>有価証券の期末評価、営業上の負債と他人資本<1>借入金、社債の発行と償還、営業上の負債と他人資本<2>転換社債と新株予約権付社債、営業上の負債と他人資本<3>引当金の処理、資本の充実と剰余金の分配 資本金と資本剰余金、財務諸表の作成と報告<1>法定された会計報告書、財務諸表の作成と報告<2>損益計算書、貸借対照表、注記、連結財務諸表<1>企業集団の財務報告、連結財務諸表<2>連結損益計算書、連結貸借対照表、まとめ。</p>	
財務諸表論A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①財務諸表作成の背景、意義、構造を理解する。②財務諸表作成の背景や変遷から、財務諸表の内容とその基礎となる会社法などの法人の根拠法、会計基準、会計原則などの会計のルールを理解する。③財務諸表の基本を理解する。④財務諸表制度における論点を理解する。⑤財務諸表に関連して存在する社会課題や論点について考察する力を身に付ける。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス：会計の概要、会計の歴史・現代会計の定義・企業会計の目的、企業会計の役割、財務諸表の定義・会計学の領域、企業会計の三大計算・会計観、会計公準・会計制度の類型、日本の財務諸表の体系・財務諸表の根拠法、企業会計原則①真实性の原則・正規の簿記の原則、企業会計原則②資本と利益の区分の原則・明瞭性の原則、企業会計原則③継続性の原則・保守主義の原則・単一性の原則・重要性の原則、損益計算書原則、収益の認識と測定、収益認識基準、収益の測定、損益計算書、資産の測定</p>	
財務諸表論B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①財務諸表の基本を理解する。②資産・負債・純資産・収益・費用の認識と測定などを理解し、各論における論点を理解する。③透明性の重要性、会計監査に関連した第三者性の重要性等、財務諸表をはじめとした会計制度における重要点を理解する。④財務諸表に関連して存在する社会課題や論点について考察する力を身に付ける。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス：会計の定義・財務諸表の目的など、複式簿記・経営成績を示すPL・財政状態を示すBSなど、企業会計の役割・企業会計の三大計算・日本の会計制度など、資産の本質とは何か・勘定式と報告式・資産の認識と測定、無形固定資産・負債の定義・負債の認識、負債の測定・引当金の意義と分類、貸倒引当金・社債・資産除去債務、監査、純資産、リース会計、税効果会計・外貨換算会計、減損会計・連結会計、金融商品会計・退職給付会計、キャッシュフロー計算書、まとめ。</p>	

管理会計論 A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。</p> <p>①企業の意味：企業の実態(法的・経営実態等)を理解できる。</p> <p>②経営の意義：現状把握、経営の失敗とはどのような状態なのかを理解できる。</p> <p>③再生の意味：上記②を改善するにはどのような手法があるのかを理解できる。</p> <p>④管理会計の定義：上記③の手法のうち管理会計はどのように貢献できるのかを理解できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。企業とは：DVDにて企業の代表的形態の株式会社の実態を学習(管理学範疇の管理会計論)、企業経営手法をDVD視聴により学習(経営概論・経営課題の理解)、企業経営改善手法をDVD視聴と配布資料により学習、企業再生とM&Aの現況をDVDにて視聴、管理学範疇の管理会計論手法、管理会計の主要方法。</p>	
管理会計論 B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。経営学部教科のうち、会計関連科目の占める割合も比較的高いので下記項目を理解できるようにする。</p> <p>①企業活動の成果としての利益創出はどのようになされるかを、損益分岐点公式により理解できる。</p> <p>②会計学関連の応用として企業のすべての分野に必要とされる管理手法としての会計の知識「管理会計論」の概要を理解できる。</p> <p>③企業の経営状況を損益分岐点公式により理解すると共に、利益計画、投資計画の二面を、前記公式により検証することができる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。管理会計手法の損益分岐点分析を公式により学習(全5回)、利益計画に有効な損益分岐点公式の学習(全4回)、投資計画に有効な損益分岐点公式の学習(全3回)、ケーススタディ(企業倒産とベンチャー企業の分析と計画)(全3回)。</p>	
原価計算論 I		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。講義を通して以下の目標を達成する。</p> <p>①仕訳と勘定記入、財務諸表の作成により工業簿記の全体像を理解する。</p> <p>②原価計算における計算体系を学習して、原価の形成過程を理解する。</p> <p>③身近にある製品原価を推定できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス/工業簿記と原価計算、工業簿記のアウトライン、原価計算のアウトライン、総合原価計算の基本、単純総合原価計算、組別総合原価計算、等級別総合原価計算、工程別原価計算、材料の追加投入、仕損・減損の処理、工業簿記の勘定連絡、損益計算書と貸借対照表、製造原価報告書、標準原価計算の基本、直接材料費・直接労務費の差異分析、まとめ。</p>	
原価計算論 II		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。講義を通して以下の目標を達成する。</p> <p>①仕訳と勘定記入、財務諸表の作成により工業簿記の全体像を理解する。</p> <p>②原価計算における計算体系を学習して、原価の形成過程を理解する。</p> <p>③身近にある製品原価を推定できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。製造間接費の差異分析、標準原価計算の記帳と財務諸表、CVP分析、直接原価計算、本社工場会計、個別原価計算の方法、仕損の会計処理、製造間接費の部門別計算、製造間接費の部門別予定配賦、実際原価計算の差異分析、費目別計算①(材料費会計)、費目別計算②(労務費会計)、費目別計算③(経費会計・営業費会計)、特論(原価の法則)、まとめ。</p>	
税務会計論 A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。</p> <p>①所得税、消費税の税務会計計算に必要な基礎知識を学習する。</p> <p>②なぜそのような制度になっているのか、その背景を理解する。</p> <p>③税の基礎知識を身に付ける。</p> <p>④税や予算に関わる社会問題に関して考察する力を身に付ける。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンスで税の基本を学び、税金の使い道、税の根拠、税の目的を理解する。次に所得税の概要として、所得の種類(利子所得、配当所得、不動産所得、事業所得、給与所得、退職所得、山林所得、譲渡所得、一時所得、雑所得)の計算方法を学ぶ。さらに、所得控除の目的や各種控除(雑損控除、医療費控除、社会保険料控除、小規模企業共済掛金等控除、生命保険料控除、地震保険料控除、寄付金控除、障害者控除、寡婦控除、ひとり親控除、勤労学生控除、配偶者控除、配偶者特別控除、扶養控除、基礎控除)を学ぶ。最後に消費税の概要を学び、まとめを行う。</p>	
税務会計論 B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。</p> <p>①法人税の税務会計計算に必要な基礎知識を学習する。</p> <p>②なぜそのような制度になっているのか、その背景を理解する。</p> <p>③税の基礎知識を身に付ける。</p> <p>④税や予算に関わる社会問題に関して考察する力を身に付ける。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、税とは何か、税金の使い道など、法人税のあらまし、法人税法における所得、益金の額に算入すべき金額など、損金の額に算入すべき金額、損金の考え方、税務調整など、益金の額の計算①資産の販売など、益金の額の計算②資産の販売等以外、損金の額の計算①棚卸資産など、損金の額の計算②役員等の給与など、損金の額の計算③寄付金など、損金の額の計算④資産の評価損など、損金の額の計算⑤引当金など、損金の額の計算⑥有価証券など、税額の計算、税額控除、法人税の申告書類、与党の税制改正大綱・次年度の税制改正の方向性について、まとめ。</p>	

会計監査論 A	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①財務諸表監査の必要性や監査を取り巻く法律を深く理解する。②会計不正に関する諸問題を的確に把握できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション、社会を揺るがす経済事件<1><2>、経済事件とコーポレート・ガバナンス<1>：コーポレート・ガバナンスと内部統制、経済事件とコーポレート・ガバナンス<2>：内部統制のフレームワーク、経済社会を支える財務情報<1>：情報公開制度の拡充、経済社会を支える財務情報<2>：企業情報の公開制度、財務諸表監査の必要性<1>：監査の役割、財務諸表監査の必要性<2>：モニタリング仮説、監査を取り巻く法律<1>：法定監査、監査を取り巻く法律<2>：公認会計士法、監査を担当する人<1>：公認会計士に求められるもの、監査を担当する人<2>：公認会計士の責任、監査を取り巻く組織<1>：日本の組織、監査を取り巻く組織<2>：米国の組織。</p>	
会計監査論 B	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①財務諸表監査のプロセスを深く理解する。②会計不正に関する諸問題を的確に把握できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション、監査のプロセス<1>：基本的なプロセス、監査のプロセス<2>：監査のアプローチ、監査のプロセス<3>：監査の実施プロセス、監査のプロセス<4>：監査の実施方法、監査のプロセス<5>：経営者確認書と監査調査、監査結果の報告<1>：監査報告書、監査結果の報告<2>：除外事項と監査意見、監査結果の報告<3>：継続企業の前提と監査報告書、監査の信頼性を向上する取り組み<1>：日本版 SOX 法による監査改革、監査の信頼性を向上する取り組み<2>：四半期財務諸表と四半期レビュー、健全な社会と監査<1>：非営利組織体に関する監査、健全な社会と監査<2>：行政機関に関する監査、健全な社会と監査<3>：政府関連組織に関する監査、まとめ。</p>	
会計学特殊講義	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①会計学の中でも特殊な論点を学習することにより、応用レベルの知識を身に付ける。②新しいトピックスに関心を持ち、視野を広げる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。イントロダクション、環境会計①（環境経営と環境会計）、環境会計②（環境管理会計）、環境会計③（環境財務会計）、環境会計④（CSRとの関係）、国際会計①（国際会計基準の潮流）、国際会計②（IFRSの概要）、国際会計③（概念フレームワーク）、国際会計④（わが国におけるIFRSの取り組み）、公会計①（官庁会計と公会計）、公会計②（新地方公会計制度）、公会計③（わが国の公会計基準）、公会計④（公会計情報の活用）、公会計⑤（国際公会計基準）、まとめ。</p>	
初級ビジネスゲーム	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①ゲームを通じて、企業経営に求められる意思決定の能力を高める。②ゲームを通じて、経営と会計の関係性および、決算手続きを理解する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション、ビジネスゲームレベル1：ルール説明①、ビジネスゲームレベル1：ルール説明②、ビジネスゲームレベル1：トライアル1回目の実施、ビジネスゲームレベル1：トライアル2回目の実施、ビジネスゲームレベル1：第1期の実施、ビジネスゲームレベル1：第2期の実施、ビジネスゲームレベル1：第3期の実施、ビジネスゲームレベル2：ルール説明①、ビジネスゲームレベル2：ルール説明②、ビジネスゲームレベル2：トライアル1回目の実施、ビジネスゲームレベル2：トライアル2回目の実施、ビジネスゲームレベル2：第1期の実施、ビジネスゲームレベル2：第2期の実施、ビジネスゲームレベル2：第3期の実施。</p>	
上級ビジネスゲーム	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①ゲームを通じて、企業経営に求められる高度な意思決定の能力を高める。②ゲームを通じて、経営と会計の関係性および、高度な決算手続きを理解する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション、ビジネスゲームレベル3：ルール説明①、ビジネスゲームレベル3：ルール説明②、ビジネスゲームレベル3：トライアル1回目の実施、ビジネスゲームレベル3：トライアル2回目の実施、ビジネスゲームレベル3：第1期の実施、ビジネスゲームレベル3：第2期の実施、ビジネスゲームレベル3：第3期の実施、ビジネスゲームレベル4：ルール説明①、ビジネスゲームレベル4：ルール説明②、ビジネスゲームレベル4：トライアル1回目の実施、ビジネスゲームレベル4：トライアル2回目の実施、ビジネスゲームレベル4：第1期の実施、ビジネスゲームレベル4：第2期の実施、ビジネスゲームレベル4：第3期の実施。</p>	
寄付講義	<p>本科目の授業形態は講義である。本科目は、各種業界・団体・組織、研究機関等からの社会貢献活動として位置づけられ、本学における研究・教育活動の一環として通常の授業の時間帯において講師派遣の受け入れを行っている。本科目は、本学の学生にとって産学連携による非常に有意義な教育の機会となっている。具体的には、各種業界や団体等から派遣講師による半期2単位の講義内容を踏まえて、本学の記載基準に基づいてシラバスを記載頂き、授業を行って頂いている。成績評価については、定期試験やレポート課題等によって、通常の科目同様に成績評価を単位認定の場合「秀」「優」「良」「可」、単位認定が出来ない場合「不可」の評価がなされている。</p>	

特別講義		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。本講義では、下記の到達目標を踏まえ、各界でご活躍になっている実務家をゲスト講師としてお迎えし、旬のテーマのおムニバス方式で行う。放送、法曹、金融、芸術など多様な世界でご活躍になっている方々の講義を通じて、早い段階から実社会へ関心を深めてもらいながら、疑似的に実社会を体感できる内容になっている。</p> <p>①ゲスト講師を迎え、将来の自分を発見し、自分にとって役立つ知識やスキルを習得する。②具体的には、国際的視野を持ち、現実を正確に認識しうる眼力を養う。③社会人としての礼節を身に付ける。④将来における自己の研究課題を見つける。</p> <p>授業計画は次の通り。 (オムニバス方式/全15回) (13 日高 光宣/1回) 初回ガイダンス 残り14回はゲスト講師(未定)をお招きする。ゲスト講師は、初回講義(ガイダンス)時に知らせる。ゲスト講師の選定については、時代性、次代性の視点から、できるだけ多様な業界の方々をお願いをしている。</p>	オムニバス方式
金融論A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。経済循環を通して信用通貨の動きや機能を理解する。また、金融全般についての基礎知識を養う。この授業を通じて獲得すべき能力:①お金の動きが経済を動かしていることを実感できる。②お金の動きを予測することで経済の動きを予想できる。③お金にまつわる経済部門の役割を理解できる。④金融について興味を持ち、経済の動きに関心を持つことができる。⑤経済新聞や経済記事を読み理解できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。金融とデジタル革命、お金の流れ、金融システムとは、金融システムの課題(情報の非対称性、契約の不完備性)、金融の基本(所得、支出、貯蓄、リスク)、金融機関の種類と役割、我が国の経済の現状と金融行政、自己資本比率と規制(BIS規制)、経済主体間の相互関係(物価、金利、景気、為替相場)まとめ</p>	
金融論B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。経済循環を通して信用通貨の動きや機能を理解する。また、金融全般についての基礎知識を養う。この授業を通じて獲得すべき能力①お金の動きが経済を動かしていることを実感できる。②お金の動きを予測することで経済の動きを予想できる③お金にまつわる経済部門の役割を理解できる。④金融について興味を持ち、経済の動きに関心を持つことができる。⑤経済新聞や経済記事を読み理解できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。世界経済の実際(物価、賃金、金利)、為替レートと日本経済の推移、物価と為替レート(購買力平価)、為替レートの変動要因、中央銀行の役割(決済システム、金融政策、デフレ対策、非伝統的政策、歴史と独立性)、需給ギャップと潜在GDP、金融政策の実際(買いオペ、売りオペ)、マネタリベース、マネーストック、信用創造、金融政策の理論(投資の限界効率、流動性選好論)、IS・LM分析、まとめ。</p>	
経営分析A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①財務諸表を理解するための会計基準、また財務諸表を分析するための手法を理解する。②経営分析を通じて、企業の財政状態および経営成績を適切に認識できるようになる。(本講義終了時に、ビジネス会計検定2級合格レベルになることを目標とする。)</p> <p>授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション:経営分析とは何か、財務諸表の基礎(連結財務諸表の読み方、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュフロー計算書)、財務諸表分析(基本分析、安全性分析、収益性分析、キャッシュフロー分析、連乗倍率と損益分岐点、1株当たり分析と1人当たり分析、持続可能性評価)、学生によるプレゼンテーション。</p>	
経営分析B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①企業倫理と持続可能性の視点から、企業活動を認識・分析・評価できること。②対話をしながら指標を作るプロセスを理解すること。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション、企業活動の変化(東日本大震災にみられた企業行動)、企業倫理の評価(経営哲学、信認の経営、企業統治・倫理法令遵守)、新しいコミュニティアニズムの実践(基本文書、内部管理体制、教育訓練、オープンネス)、持続可能性の評価(人間の基本的ニーズ、環境と社会の持続可能性原則、ビジネスモデルキャンパス)、企業倫理と持続可能性の評価軸の作成(環境領域、社会領域、統合指標)。</p>	
金融機関論A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①地域金融機関が抱えてきた不良債権などの問題点やそれらを乗り越えるために金融機関がとってきた行動を考察することで現在の金融機関の課題を正しく理解する。②不動産について学習することで、金融機関に重要な担保や物権を理解する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。金融機関とは何か(金融機関の種類、金融機関のルーツ)、我が国経済の現状と金融行政、リレーンション・バンキング、トランザクション・バンキング、不動産とは何か(定義、諸規制)、土地の分類と建物の分類、借地権と不動産の有効利用、地域要因の分析と個別要因の分析、不動産の権利(物権の種類と債権の種類)、不動産の権利(所有権、用益物権、担保物権)、不動産の権利(抵当権)、不動産登記とはなにか、不動産登記の効力(登記の対抗力、登記の公信力、仮登記)、不動産の鑑定評価(比較方式、原価方式、収益方式)、まとめ。</p>	

金融機関論B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①保険を学習することでリスクとその対応方法について理解する。②保険のコンプライアンスについて学習することで、適切な販売の在り方を理解する。③保険の仕組みを理解することで、保険とは何かを理解する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。リスクマネジメントとは、リスクの処理技術、保険制度全般について、投資家保護に関する制度、保険マーケットの最近の動向、保険会社の破綻への対応（支払い補償制度）、大数の法則・収支相当の原則、保険料の構成と平準保険料、剰余金・配当の仕組み、配当タイプ別の保険、約款と告知義務、責任開始日（責任開始日とは何か、決定条件）、保険料の払込方法（種類、払込期日と猶予期間）、保険料の払込みが困難になった場合の対応手段、まとめ</p>	
ファイナンスA		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①ファイナンスに関する諸理論の内容を理解する。②例題・問題演習などを通して、現実社会におけるその適用可能性について理解する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ファイナンスの基本概念、キャッシュフロー、時間価値概念の説明（将来価値と現在価値の求め方）。次に投資決定方法を学び、正味現在価値法、回収期間法、内部収益率法の計算方法と3方法の比較を行う。資本コストの計算方法として個別資本コストと加重平均資本コストを学び、問題演習を実施する。資産価値評価では、配当割引モデルとその応用を学び、再び問題演習を行う。最後に資本構成についての基本概念と諸理論を学び、まとめを行う</p>	
ファイナンスB		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①ファイナンスに関する諸理論の内容を理解する。②例題・問題演習などを通して、現実社会におけるその適用可能性について理解する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。講義内容の概説、投資のリターンとリスクについて（リターンとリスクの捉え方、リスク概念とその重要性、リターンとリスクの計算方法、問題演習）、ポートフォリオにおけるリターンとリスク、分散投資の効果（リターンとリスクの計算方法、期待値・標準偏差分析、ポートフォリオ選択）、資本資産評価モデル（CAPM）の基本概念と考え方、問題演習、ポートフォリオ理論の実用化と市場環境の変化（市場の機関化・効率化、敗者のゲーム論、インデックス・ファンド）、効率市場仮説（効率市場の定義、検定例と反証）、まとめ。</p>	
国際経済学A	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①対外経済取引の概要や為替相場との関連、内外の金融政策と為替相場の関係などについて理解する。②国内でも観察できる経済・金融事象をグローバルな視点で捉え、問題点等を理解できる。授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、外国為替の基本（「為替」、「外国為替」、「FX」の意味）、外国為替の仕組み、外国為替市場と銀行間市場、外国為替相場の見方（円高・円安の具体的な意味）、為替相場を動かす要因（経常取引、資本取引）、国際収支統計の見方、円高・円安の経済的影響、内外金利状況と為替相場、物価変動と為替相場、経済状況と為替変動、金融政策と為替相場、他の通貨相場とIMFの制度、国際通貨制度の変遷、まとめ。</p>	
国際経済学B	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①一般論としての貿易の利益や貿易問題を理解する。②貿易問題に対応して日本国が行っている貿易政策が理解できる。③国際収支不均衡の問題点とともに、これまでどのような対応策が考えられ、行われてきたかを理解する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。貿易取引の概要（貿易の流れ、貿易条件、船積書類、信用状など貿易の仕組み）、貿易の物の動き（輸出貨物の「外国貨物」、輸入貨物の「国内貨物」への変化）、貿易の金の動き（貿易代金の支払い方法とリスク）、貿易金融（資金ニーズと金融機関取引）、外国為替市場と為替相場（市場取引と為替相場）、国際貿易論の基礎（比較生産費説）、貿易の利益（余剰分析）、貿易問題と貿易政策（国内経済への影響と政策対応）、国際収支の見方（収支表の作成方法と内容）、国際収支不均衡（問題と長期・短期的な調整）、まとめ（要点の復習と理解度確認）。</p>	
情報社会論		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 情報技術の発展が産業構造を変容させ、コンピュータによる機械的な処理がメディアやコミュニケーション、社会システムなどに多大な影響を及ぼしていることが理解でき、今日のAIやxR、DXなどと密接な関わりを持っていることを説明できる。② 情報化や情報技術がもたらす不可能を可能にする明るい未来や、逆にデメリットとして生じる様々な問題や課題について、講義内容を理解し、情報社会や情報技術に関する文献・記事等を検索・調査でき、自分の考えを整理して報告することができる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、社会情報学の定義、情報と人類の歴史的關係、コンピュータの登場、コミュニケーションの変化、社会的意思決定と情報、情報と社会システム（行政、医療、教育、電子マネー、音楽、ゲーム）、文化のデジタル化、情報法（通信、表現の自由、個人情報保護、著作権）、情報セキュリティと犯罪、最新・未来の情報技術、まとめ。</p>	

コンピュータ管理演習		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①コンピュータを使用する際、大学や会社ではネットワークへの接続が前提となる。本講義では、大学のネットワークや自宅でのインターネットの利用に関する仕組みを理解し、自力で各種設定の意味を理解し、コンピュータ本体だけでなく、OSやアプリケーション等さまざまなネットワーク上のトラブルに対処できることを目標とする。②タイピングは練習サイト https://www.e-typing.ne.jp/roma/check/ で124ポイント以上。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンスとユーザー登録、パソコンと周辺機器、OSとアプリケーションソフト、パソコン利用時のトラブル対処、モバイル情報機器、インターネットの仕組みと接続方法、Webブラウザとメール、SNS利用、各種インターネットサービス、セキュリティ（インターネットの脅威、心理的脅威、マルウェア、不正アクセス、パスワード管理、暗号化）、トラブルの基本対処、インターネット上のマナーと情報管理。</p>	<p>講義 24時間 実習 6時間</p>
Webサイト構築演習		<p>本科目の授業形態は演習／実習である。授業の到達目標は次の通りである。Webサイトの仕組みを理解し、「完成イメージ」をもとに、テキストエディターを使用してゼロからHTMLやCSSを書き、Webサーバにアップロードすることができる。①HTMLの編集（基本的な要素）；②HTMLの編集（表とビデオの表示）；③CSSの編集とHTMLファイルからのリンク；④Webサーバへのアップロード；⑤タイピングは練習サイト https://www.e-typing.ne.jp/roma/check/ で自己ベストスコア＋30ポイント。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス・環境設定、webページの制作、HTMLの基礎知識、よく使う要素の設定、画像の表示とリンクの設定、内容の組み立てと正しいコードの記述、HTMLファイルの複製と編集、表の作成とビデオの表示、CSSの基礎知識、文字のスタイルの記述、背景やボーダーのスタイルの記述、見栄えを整えるスタイルの記述、ファイルのアップロード、練習問題、模擬テスト。</p>	<p>演習 15時間 実習 15時間</p>
アルゴリズム論	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 代表的なデータ構造とアルゴリズムについて理解し、説明できる。② フローチャートを用いて処理の流れを表現できる。③ 擬似言語で表現された処理の内容を理解できる。④ Python言語によるアルゴリズムの実装について理解できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、実習環境の概要、アルゴリズムとは、アルゴリズムとデータ構造、アルゴリズムと流れ図、プログラミング言語への実装、擬似言語、FizzBuzz、自動販売機のおつり計算、基数変換、素数の判定、フィボナッチ数列、組合せ最適化問題、計算量、探索処理、整列処理、演習問題。</p>	
Office応用演習A		<p>本科目の授業形態は演習である。授業の到達目標は次の通りである。①実社会で必須であるWordに関する基本操作や機能を習得し、効率よく文書作成ができるようになる。②MOS Word365試験（Microsoft Office Specialist Word365一般レベル）に合格することを目標とする。※受験料は、学割価格 ¥8,580（税込）</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス・MOS試験の概要、文書の管理（文書内の移動・書式設定・保存・共有・検査）、文字、段落、セクションの挿入と書式設定、表の管理（作成・変更）、リストの管理（作成・変更）、参考資料の作成と管理、グラフィック要素の挿入・書式設定、文書の共同作業の管理・模擬プログラムの操作方法、問題演習（模擬1）、問題演習（模擬2）、問題演習（模擬3）、問題演習（模擬4）、問題演習（模擬5）、小テスト（模擬問題ランダム①）、小テスト（模擬問題ランダム②）。</p>	
Office応用演習B		<p>本科目の授業形態は演習である。授業の到達目標は次の通りである。実社会で必須であるExcelに関する基本操作や機能を習得し、効率よく文書作成ができるようになる。MOS Excel 365試験（Microsoft Office Specialist Excel 365一般レベル）に合格することを目標とする。※受験料は、学割価格 ¥8,580（税込）</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス・MOS試験の概要、ワークシートやブックの操作（作成・移動・書式設定）、セルやセル範囲の操作（データ挿入・書式設定）、データの整理・テーブル（作成・管理・スタイル・フィルター・並べ替え）、関数を使用した集計、関数を使用した条件付きの計算、関数を使用した書式設定・文字列の変更、グラフ（作成・書式設定）とオブジェクト操作、模擬プログラムの操作方法・問題演習（模擬1）、問題演習（模擬2）、問題演習（模擬3）、問題演習（模擬4）、問題演習（模擬5）、小テスト（模擬問題ランダム①）、小テスト（模擬問題ランダム②）。</p>	

情報システム論		本科目の授業形態は講義／実習である。授業の到達目標は次の通りである。パソコンを活用した演習を通して以下の目標を達成する。 ①MS-Excelのマクロ機能に関する知識をビジネス実務に活用できるようになる。②実践的なVBAプログラミングテクニックの習得により、定型的な業務処理をシステム化できるようになる。 授業計画は次の内容を含む。ガイダンス／マクロ・VBAの基礎知識、マクロの作成、複数のマクロ処理と保存、マクロの編集、モジュールとプロシージャ、プロシージャの構成要素と作成、変数と条件分岐① (If～Then)、条件分岐② (Select～Case)、処理の繰り返し① (For～Next)、処理の繰り返し② (Do～Loop)、販売管理プログラムの作成① (処理の確認)、販売管理プログラムの作成② (印刷・仕上げ)、デバック、総合問題演習、まとめ。	講義 16時間 実習 14時間
データベース	○	本科目の授業形態は講義／実習である。授業の到達目標は次の通りである。①データベースの基本概念と仕組みを理解し、データベースの設計と運用に必要なスキルを習得する。②SQLを用いたデータ操作を学び、実習を通してデータベース技術を身に付ける。 授業計画は次の内容を含む。データベースの基本的概念を踏まえ、身の回りにおけるデータベースの活用例を概観した後、リレーショナルデータベース (RDB) やデータベース管理システム (DBMS) の仕組みを学習する。さらにリレーショナルデータベース管理システムで用いられているSQLを実際に操作することで、データベースの設計や構造に対する理解を深めていく。	講義 16時間 実習 14時間
マルチメディア	○	本科目の授業形態は実習／講義である。授業の到達目標は次の通りである。①メディア及びメディアを利用したサービスについて体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。②メディアを利用したサービスに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。③メディアを利用したサービスの安全かつ効果的な運用と管理ができる。 授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション、マルチメディアの概念と作成、標準化、量子化、符号化、情報量の表し方、メディアの発達と特性、電動メディアの特性、コミュニケーション形態とインターネット、情報デザインとWebアクセシビリティ、表やグラフの利用、情報デザインの実践、静止画と動画の表現、音声付きプレゼンテーション作成、情報のデジタル化 (アナログとデジタル、2進数、数値と文字の表現)、XAMPPとWordPressのインストール、メニューとスライドショーの作成、GIMPの基本操作、WordPress投稿、固定ページの作成、ナビゲータの説明、セキュリティ、ホームページの発表会。	実習 16時間 講義 14時間
情報通信ネットワーク	○	本科目の授業形態は講義／実習である。授業の到達目標は次の通りである。パソコンのネットワーク接続設定の状態の確認や設定ができるようになる。データがどのようにして相手に届くのかを理解できるようになる。自宅や事務所など小さなネットワーク構築ができるようになる。迷惑メールなどどのように対応する必要があるか判断できるようになる。 授業計画は次の内容を含む。オリエンテーション、情報の表現、コンピュータの構成、ネットワークの全体像と方式、通信プロトコル、ネットワーク接続機器、LANとWAN、通信の階層化、OSI参照モデル、ポート番号、インターネットの仕組み、IPアドレスとサブネットマスク、DNS、ルーティング、MACアドレス、イーサネット規格、Webサービスとアプリ、電子メール、ネットワーク管理、情報セキュリティと管理、サイバー攻撃と暗号技術、認証技術、ネットワークセキュリティ、XAMPPのインストール、HTMLとCSS作成、ホームページ発表、総合演習。	講義 20時間 実習 10時間
データサイエンス入門	○	本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①データ・AI利活用の最新状況が分かる。②データリテラシーの基礎的事項が身につく。③データ・AI利活用の心得を理解する。 授業計画は次の内容を含む。1.1 社会で起きている変化 (SNSやAI関連の変化)、1.2 社会で活用されているデータ、1.3 データとAIの活用領域、1.4 データ・AI利活用の技術 (予測、クラスタリング、可視化、パターン認識など)、1.5 データ・AI活用の現場、1.6 データ・AI利活用の最新動向。2.1 データを読む (データの分布と代表値、相関、標本抽出など、Python実習を含む)、2.2 データを説明する (Python実習を含む)、2.3 データを扱う (データの集計と並べ替え、ヒストグラム、散布図、エクセルとPython実習を含む)。3.1 データ・AIを扱う上での留意事項、3.2 データを守る上での留意事項。	
データサイエンス演習	○	本科目の授業形態は演習である。授業の到達目標は次の通りである。①実際の問題を対象に、机上のデータ分析だけに留まらないデータサイエンスの一連の過程を、多様なメンバーからなるグループ活動として体験する。②この活動を通して、データサイエンティストとして働くための能力、または、データサイエンティストと協働する能力を身につける。③一連の活動を通して、生成AIを活用する能力を身につける。 授業計画は次の内容を含む。できるだけ多様なメンバーを含むようにグループを編成し、データサイエンスの一連の過程 (現場での問題の発見・設定→データ収集・前処理・分析→結果の検討→問題解決策の提案) を体験する。	

多変量解析	○	本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①多変量解析の主要な手法について理論面を理解する。②多変量解析の主要な手法を使って分析を行うことができる。③与えられた問題に対して多変量解析のどの手法を使うとよいか判断できる。授業計画は次の内容を含む。イントロダクション：この科目で学ぶこと、準備：Google ColabとPython、準備：分散、共分散、相関係数、単回帰：理論、単回帰：演習、重回帰：理論、重回帰：演習、エクセルでの重回帰分析、2クラス分類；ロジスティック回帰、最尤推定、確率的勾配降下法、2クラス分類；演習、多クラス分類、非階層的クラスタリング；K-meansクラスタリング、階層的クラスタリング、主成分分析：理論、主成分分析：演習。	
実践人工知能	○	本科目の授業形態は演習である。授業の到達目標は次の通りである。最新のAIプログラムを動かしてみるにより、AI技術を体感する。生成AIを活用することにより、既存のAIプログラムに対して、自分がやりたいことを実現する上で必要な追加修正が、簡単なものならある程度できるようになる。授業計画は次の内容を含む。イントロダクション：AIの世界へようこそ、準備1：Python、Google Colaboratory、生成AI、準備2：VS Code、GitHub Copilot、GitHub Global Campusへの応募、演習1（認識機能を活用したアプリケーションの制作）：例題解説（Gesture Pong）、演習1：企画案検討会、演習1：制作1、演習1：制作2、演習1：制作3、演習1：成果発表、演習2（対話機能を活用したアプリケーションの制作）：例題解説（SUNABA + ChatGPT）、演習2：企画案検討会、演習2：制作1、演習2：制作2、演習2：制作3、演習2：成果発表。	
社会調査法	○	本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①社会調査とは何かを理解し、意味を説明できる。②質的調査についてその特性を理解し、質的調査の方法論を説明できる。③量的調査についてその特性を理解し、質的調査との違いや基本用語を説明できる。④インタビュー調査や調査票の作成法を理解し、簡易な調査や分析を行うことができる。⑤社会調査における倫理の重要性について理解し、倫理規程が認識できる。授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、社会調査とは何か、質的調査とは何か、参与観察と観察の方法、インタビュー調査の進め方、質的調査の分析、質的調査の研究例、量的調査とは何か、調査票の作成とサンプリング、調査票の分析、二次元分析とその実践例、量的調査の研究例、社会調査の展開、調査倫理、まとめ。	
データマイニング	○	本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①データサイエンスの重要性を理解し、データマイニングの基本知識とその重要性を説明できること。②データマイニングの基本技法を理解し、多様なデータから知識を得る方法を調査し、報告できること。授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、データマイニングの概念、データの表現方法（データの種類、グラフ、重要な値、ばらつき、外れ値、視覚表現）、データの処理と活用（周期性、移動平均、相関、前処理、主成分分析、回帰分析、判別分析、モンテカルロ法、多変量解析）、統計学の知識（確率、ベイズの定理、データの分布、中心極限定理、確率密度関数、検定）、データマイニングとAI（機械学習、ニューラルネットワーク、ディープラーニング、クラスタリング、サポートベクターマシン）、倫理と関連法規、まとめ。	
ビッグデータ解析	○	本科目の授業形態は実習／講義である。授業の到達目標は次の通りである。①ビッグデータやデータサイエンスとは何かを理解し、意味を説明できる。②Python言語で実践的な売上データの加工・集計・可視化ができる。③Python言語で実践的な顧客データに基づいた顧客の把握と行動予測ができる。④Python言語で文字データを読み込み、簡単な自然言語処理ができる。⑤多様なデータに対する適切な解析について調査でき、自分の考えを整理して報告することができる。授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、社会におけるビッグデータ、スクレイピングとHTML解析、表データの読み書きとグラフ表示、売上データの集計と可視化、小売店データの補正と補完、顧客データの分析、Pythonの利点、顧客行動予測、シミュレーションによる消費者行動予測、潜在顧客の画像認識、文字データの自然言語処理、ビジネスとデータサイエンスの今後の展望、まとめ。	実習 24時間 講義 6時間
時系列解析	○	本科目の授業形態は講義である。時系列データとは、ある現象の時間的な変化を、連続的にまたは不連続に観測して得られた値のデータである。時系列データを解析することで、需要予測や在庫管理、販売計画など、将来の需要や供給に関する判断の材料を得ることができる。すなわち、時系列解析は時系列を解釈するための手法であり、データ列の背後にある理論を見出すか、予測を行うためのものである。そのために時系列モデルを構築するが、基本的な考え方は、過去の値を説明変数として、現在の値を式で表すことである。そこで、はじめに時系列解析に関係する単回帰分析、重回帰分析、成長曲線、最近隣法、灰色理論の理論について概観する。そして、時系列分析の基本概念である「トレンド」「周期変動」「不規則変動」「季節変動」を中心に、各統計手法の基礎的な事項から実データによる予測事例について、各種ツールを用いて実装を行う。	

機械学習	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。学習結果の評価方法、過学習、バイアスについて理解する。深層学習の原理の基本的な部分を理解する。深層学習のプログラムを動かす、学習結果を評価できる。強化学習の原理の基本的な部分を理解する。強化学習のプログラムを動かす、学習結果を評価できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。イントロダクション（需要予測、商品推薦、異常検知など）、Python、Google Colaboratory、scikit-learn、生成AI、機械学習の種類、学習データと検証データ、ホールドアウト法、交差検証法、モデル評価（混同行列、Accuracy、Precision、Recall、MSE、ROC曲線、AUC）、過学習とバイアス、深層学習入門、ニューラルネットワーク、CNNとその応用、Transformerとその応用、生成AI、強化学習入門、深層強化学習、学習用データと学習済みモデル、深層学習モデルの解釈性とアラインメント</p>	
モデル化とシミュレーション	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。モデルを作ることモデル化といい、企業活動や社会活動解決策を探したり、意思決定をしたりするために使われる。実物を使った実験ができないとき、モデルを通して対象を理解し、問題を解決する能力を涵養する。実際の現象や現物の動作を模倣するシミュレーションでは、Pythonプログラムにてモデルを作成し、シミュレーションを行うことによって、より複雑な企業戦略、経済政策に生かすことができる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。モンテカルロ法、待ち行列のモデル化、時系列分析と回帰分析、確率的モデルのシミュレーション、経済産業省や内閣府で開発し人口問題や年金政策に対して試行したマイクロシミュレーション、医療政策で用いる医療のビッグデータであるDPC分析</p>	
ゲーム理論 I	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。支配戦略、支配戦略均衡、最適反応、ナッシュ均衡などの概念を説明できる。標準形ゲームの定義を用いてクールノーモデル、ベルトランモデル、ホテリングモデルを定式化し、ナッシュ均衡を導出できる。混合戦略の概念を説明し、混合戦略均衡を導出できる。展開型ゲームを理解し、後ろ向き帰納法、均衡経路を説明できる。後ろ向き帰納法による均衡と部分ゲーム完全均衡による均衡の違いを説明できる。有限回繰り返しゲームと無限回繰り返しゲームの違いを理解し、無限回繰り返しゲームのトリガー戦略における割引率の与える影響について説明できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンスとゲームの分類、標準型ゲームの構成、支配戦略と均衡、最適反応とナッシュ均衡、クールノー・ベルトラン・ホテリングモデル、期待値と混合戦略、復習と中間課題、展開型ゲーム、後ろ向き帰納法、部分ゲーム完全均衡、多段階ゲーム、繰り返しゲーム、まとめ。</p>	
ゲーム理論 II	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。不完備情報ゲームの特徴を説明できる。不完備情報の静学ゲームの均衡を求められる。オークションの種類を理解し、それぞれの均衡の性質を説明できる。不完備情報の動学ゲームの性質を説明できる。不完備情報の動学ゲームの均衡を求められる。シグナリングの理論を理解し、均衡での性質を説明できる。チープトークゲームを理解し、均衡での性質を説明できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、ゲーム理論 I 復習、不完備情報の静学ゲームと条件付き確率、ベイジアンナッシュ均衡、非対称情報のクールノーモデル、第二価格封印オークション（イギリス式オークション）、第一価格封印オークション（オランダ式オークション）、復習と中間課題、不完備情報の動学ゲーム、信念とベイジアンアップデート、（弱）完全ベイジアン均衡、シグナリングゲーム：ビール-キッシュゲーム、シグナリングゲーム②：就職市場のシグナリング、チープトークゲーム、まとめ。</p>	
行動経済学 I	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 行動経済学と標準的な経済学で前提とする個人の違いを理解できるようになる。② 人が合理的に振舞えない事例とその原因を理解できるようになる。③ 実社会における人の意思決定の方法とそれによる問題を理解できるようになる。④ 情報が非対称であることで生じる市場の失敗を理解できるようになる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。授業の進め方、行動経済学の成り立ち、選好と効用、限定合理性（モンティホールのジレンマ、平均への回帰、メンタルアカウンティング、サンクコスト効果）、ヒューリスティクスとバイアス（システム1とシステム2、利用可能性ヒューリスティクス、代表性ヒューリスティクス、アンカリング、フレーミング）、情報の非対称性（レモン市場とモラルハザード、シグナリング）、まとめ。</p>	
行動経済学 II	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① リスクある状況下での人の選択を理解できるようになる。② プロスペクト理論の特徴を理解できるようになる。③ 人の持つ公平性や双曲割引を理解できるようになる。④ ナッジの仕組みおよび実例を理解できるようになる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。授業の進め方、不確実性（1） サンクトペテルブルクのパラドックス、不確実性（2） リスク態度、不確実性（3） アレのパラドックス、プロスペクト理論（1） 価値関数、プロスペクト理論（2） 参照点依存性、プロスペクト理論（3） 損失回避性、プロスペクト理論（4） 確率加重関数、社会選好（1） 最後提案ゲーム、社会選好（2） 公平性、時間選好（1） 双曲割引、時間選好（2） ピークエンド効果、ナッジ（1） 選択アーキテクチャ、ナッジ（2） ナッジの具体例、まとめ。</p>	

産業組織論	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。完全競争や独占における企業の戦略を説明できる。価格差別の種類とそれぞれの性質を説明できる。ゲーム理論を理解し、ナッシュ均衡の概念を説明できる。複占市場における数量競争と価格競争について説明できる。製品差別化について理解し、現実の企業の戦略を考察できる。カルテルに関する理論を理解し、リニエンシー制度について説明できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、ミクロ復習：需要曲線・費用関数・余剰、ミクロ復習：独占企業の利潤最大化、完全価格差別、需要の価格弾力性と市場分割、二部料金、バンドル、復習と中間課題、ゲーム理論：ナッシュ均衡と動学ゲーム、クールノー競争、ベルトラン競争、製品差別化①：水平的な製品差別化、製品差別化②：垂直的な製品差別化、ゲーム理論：繰り返しゲーム、カルテル、リニエンシー制度、まとめ</p>	
公共政策	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 公共財定義とその供給メカニズムを説明できるようになる。② 外部効果の対応を説明できるようになる。③ 自然独占の発生条件とその対応を説明できるようになる。④ 所得再分配の政策を説明できるようになる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。授業の進め方、公共部門の役割、公共財（1） 公共財とは、公共財（2） リンダール・メカニズム、公共財（3） 投票のメカニズム、外部効果（1） 外部効果とは、外部効果（2） ピグー税、外部効果（3） コースの定理、自然独占（1） 不完全競争、自然独占（2） 自然独占とは、自然独占（3） 価格規制、所得再分配（1） 所得再分配の必要性、所得再分配（2） 保険としての再分配、所得再分配（3） 税金と社会保障、まとめ</p>	
環境経済学	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。外部性が発生する市場における非効率を説明することができる。環境汚染による加害者と被害者の状況を理解し、コースの定理による解決策を導出することができる。エネルギー政策の現実を理解し、ワイツマンの定理を説明することができる。ゴミの有料化の政策の意図を理解し、不法投棄の現状について議論することができる。枯渇性資源と再生可能資源の違いを理解し、資源の採掘量のあり方を議論できる。企業の環境配慮の活動について経済学的な分析を行うことができる。農村や農業の今後のあり方について、経済学的な主張を行うことができる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、経済と環境、外部性と市場の失敗、環境汚染とコースの定理、排出量取引、地球温暖化：炭素税、エネルギーと省エネ政策、ワイツマンの定理、廃棄物：ゴミの有料化と料金設定、廃棄物：不法投棄、枯渇性資源、再生可能資源、企業と環境配慮、農業と環境、授業のまとめ。</p>	
経済史・思想入門	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 古典派経済学の形成と確立の流れを理解できるようになる。② マルクス経済学の特徴を理解できるようになる。③ 新古典派経済学の特徴を理解できるようになる。④ 資本主義と市場形態の経済理論への影響を理解できるようになる。⑤ ケインズ経済学の特徴を理解できるようになる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。授業の進め方、重商主義と重農主義、アダム・スミス 富と分業、マルサスとリカード（1） 人口論、マルサスとリカード（2） 比較優位の原則、マルクス経済学 労働価値説、新古典派経済学（1） 限界革命、新古典派経済学（2） 一般均衡理論、ウェバーとシュンペーター（1） 資本主義とは、ウェバーとシュンペーター（2） 資本主義の動態性、市場と制度（1） 完全競争論、市場と制度（2） 不完全競争論、ケインズ経済学（1） なぜ失業者が現れるのか、ケインズ経済学（2） 有効需要の原理、まとめ</p>	
計量経済学A	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①政府統計の総合窓口（e-Stat）から必要な統計データを手で取り、基本統計量を計算し解釈できる。②データ分析（重回帰分析など）を行うことが出来る。③賃金決定モデルに関して正しいモデル選択を行うことが出来る。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス：計量経済学を学ぶ意義、今後の講義概要、統計学の復習（1）：統計データに関する全般的な説明、統計学の復習（2）：統計理論の説明（基本統計量を中心に）、統計学の復習（3）：エクセル（分析ツール）を使った統計分析の説明、散布図、相関と回帰分析、仮説検定、単回帰分析（1）：理論の説明、単回帰分析（2）：エクセルを使った課題演習、単回帰分析と内生性の問題、重回帰分析（1）：理論の説明、重回帰分析（2）：エクセルを使った課題演習、最小二乗推定量の性質、分布の特性、回帰分析によるモデル選択、プレゼンテーション（1）：第1グループによる発表、プレゼンテーション（2）：第2グループによる発表</p>	
計量経済学B	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①正しくデータ分析（パネル分析など）を行うことが出来る。②計量モデルにおける内生性の解決策を提示することが出来る。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス：今後の講義概要、計量経済学Aの復習、回帰分析の復習、及び、課題演習、回帰分析と各種検定（t検定、F検定、Chow検定）、不均一分散の問題、系列相関、系列相関の検定、操作変数法、線形同時方程式モデル、最尤法とは、線形同時方程式モデル、ロジット・プロビットモデル、パネルデータ分析（1）：考え方、パネルデータ分析（2）：課題演習、プレゼンテーション（1）：第1グループによる発表、プレゼンテーション（2）：第2グループによる発表。</p>	

日本経済論	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 日本経済の現状とこれまでのあゆみを知り、その特質について理解する。② さまざまな日本の経済問題に対してどのような対策が施されているかを知り、それがどのような帰結をもたらすのかを考えることができる。③ 経済問題に関する自分の考えを論理的に表現することができる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。経済分析の基礎、工業化の経緯、戦前戦後の経済、バブル崩壊以降、日本の地勢、輸出産業と輸入産業、労働市場、資産運用、社会資本、社会保障制度、少子化と人口減少、大都市への人口移動、財政政策と債務増加、財政金融政策、まとめ</p>	
経済政策論	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 政府が政策を用いて経済に介入する根拠となる市場の失敗について理解できる。② 個別の経済政策がどのような市場の失敗を緩和する効果をもたらすのか理解できる。③ 個別の税制度が市場の効率性にどのような歪みをもたらすのか理解できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。経済分析の基礎、独占、外部性、情報非対称、所得格差と再分配、公共財の提供、さまざまな規制、財政政策、金融政策、消費税、所得税、関税、最低賃金と所得補助、政策の国際協調、まとめ。</p>	
財政学A	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 政府の経済活動の意義と財政の役割を説明できるようになる。② 予算の仕組みを説明できるようになる。③ 財政収支と財政赤字について説明できるようになる。④ 公共財とは何かと供給にあたっての問題を説明できるようになる。⑤ 税の意義と経済への影響を説明できるようになる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。授業の進め方、財政とは何か（1）財政とは、財政とは何か（2）政府の役割、財政とは何か（3）大きな政府 小さな政府、財政制度（1）予算制度、財政制度（2）財政投融资、財政収支（1）財政収支とは、財政収支（2）財政赤字、公共財（1）公共財とは、公共財（2）公共財の最適供給、公共財（3）フリーライダー問題、税（1）税の種類と基本原則、税（2）税の超過負担、税（3）ラムゼイのルール、まとめ。</p>	
財政学B	○	<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。① 所得再分配の意義を説明できるようになる。② 公債の役割と影響を説明できるようになる。③ 社会保障の意義を説明できるようになる。④ 地方財政の役割と仕組みを説明できるようになる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。授業の進め方、所得分配（1）なぜ所得再分配が必要か、所得分配（2）社会的厚生関数、所得分配（3）保険としての所得再分配、公債（1）公債とは、公債（2）リカードの等価定理、公債（3）パローの中立命題、公債（4）中立命題の現実性、社会保障（1）社会保障とは何か、社会保障（2）公的年金制度、社会保障（3）公的年金の経済モデル、地方財政（1）地方財政の役割、地方財政（2）地方の行政範囲、地方財政（3）地方の財政、まとめ。</p>	
観光学概論A		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①観光産業の特性・重要性を理解する。②観光に関する知識を身に付け、観光が抱える問題に、自分自身で対策を考えることが出来る。③観光の経済効果を測定できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス：観光を学ぶ意味、講義の概要、観光の定義、観光の語源、観光関連用語、観光の歴史、日本の観光の現状（1）：インバウンドとアウトバウンド、日本の観光の現状（2）：震災後の観光戦略、国際観光の動向（1）：主要国の現状、国際観光の動向（2）：主要国の観光政策の取り組み、観光マーケティング：観光需要と弾力性、観光産業の構成と特徴、観光の様々な効果（1）：経済への波及効果、観光の様々な効果（2）：観光と環境問題、観光とビジネス（1）：旅行業、宿泊業、テーマパーク、観光とビジネス（2）：LCCの参入、観光地の現状（1）：温泉地の現状、観光地の現状（2）九州における観光圏の形成。</p>	
観光学概論B		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①日本の観光政策の取り組みを理解する。②ニューツーリズムの特性・重要性を理解する。③観光に関する知識を身に付け、観光が抱える問題に自分自身で対策を考えることが出来る。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。まず観光の現状と講義の概要を説明し、日本の観光政策の取り組みの評価・検証を行う。次に、宮崎県の観光の現状を学び、観光の歴史、観光政策、観光と交通、観光地の現状（シーガイアの経営問題、新たな取り組み（綾ユネスコエコパーク、霧島ジオパーク））を学ぶ。さらに、ニューツーリズム（エコツーリズム、ヘルスツーリズム、産業観光、コンテンツツーリズム、ダークツーリズム、ガストロノミーツーリズム）の概要と観光マーケティングの手法を学び、観光客誘致のためのマーケティングシートを作成する。最後に、グループ発表、高齢化社会と観光、ユニバーサルツーリズムとその取り組みについて学ぶ。</p>	

実践経済演習	○	<p>本科目の授業形態は演習／講義である。授業の到達目標は次の通りである。①実践的な経済学の理論を理解し、ビジネスや行政の現場など様々な分野で活用できるようにする。②フィールドワークを通じて関係者とのコミュニケーション力やプレゼンテーション力の向上を図り、地域振興における実践的な学びの基礎的な素養を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (6 墨 昌芳/5回) 計量経済学、自然実験法の概念と活用例 (7 萩原 駿史/5回) 行動経済学の応用、ナッジ理論、非合理バイアスと投資行動 (8 宮下 稔規/5回) マイクロ経済学、ゲーム理論の応用、マッチング理論、マーケットデザイン</p>	オムニバス方式 演習 18時間 講義 12時間
情報と職業		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①情報技術が社会やビジネスをどう支えていて、どう変えてきたか、今後どう変えていくかを理解する。②それを他の人に説明することができる。③得られた知識に基づいて社会の将来像を討議・想像・創造する力を身に付ける。④将来に向けて自分が今何をすべきかの目標が定まる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。イントロダクション、情報社会と情報システム、ビジネス環境の変化（コンビニの情報活用事例、ワントゥワンビジネス）、企業の情報活用（製造業とサービス業、その他の業種、eラーニング、ネットビジネス）、働く環境と労働観の変化、情報社会における犯罪と法制度、リスクマネジメント、明日の情報社会、総合演習（グループ分け、問題発見、解決策の検討、ビジネス企画の立案、発表と相互評価）。</p>	
インターンシップ		<p>本科目の授業形態は講義／実習である。授業の到達目標は次の通りである。①企業や官公庁、各種団体等での就業体験を通して理論的学習の重要性を再認識し、学習意欲を高め、専門分野に関する深い認識を身につける。②社会で働く上で求められる能力を認識し、その後の大学生活でその獲得ができるようになる。③就業体験により、職業観・就業意識を育成し、適切な職業選択をはじめとするキャリア形成能力を身につける。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。インターンシップガイダンス(第1週)、インターンシップ先希望アンケート(5月)、インターンシップ受入先調整・選考(6月)、事前指導①インターンシップ概説(5月)、事前指導②基礎マナー(7月)、事前指導③受入先研究指導(7月)、事前指導④受入先研究・発表(7月)、インターンシップ(就業体験学習)実施(夏期休暇中1～2週間)、事後指導①(10月) 体験発表指導、事後指導②(10月) 体験発表、インターンシップ体験発表(11月)、成績評価・単位認定(2月)。 (11 武次 玄三・30 宮田 浩史) (共同)</p>	共同 講義 22時間 実習 8時間
ボランティア		<p>本科目の授業形態は講義／演習である。授業の到達目標は次の通りである。① ボランティア活動の多様な側面、活動実践について理解する。② 市民としてのボランティア活動について、具体的にイメージすることができる。③ ボランティア原理である主体性、自主性、創造性を身に付ける。④ 他者との協働に求められるコミュニケーション力を身に付ける。⑤ 地域を理解し、地域課題を認識することができる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。サービス・ラーニングとボランティア、コミュニケーションの重要性（アイスブレイキング）、ボランティアの歴史、ボランティアとNPO、ボランティア活動の多様な側面（組織面、活動面）、地域での実践（日本赤十字社、社会福祉協議会の講義）、身近なテーマからのサービス・ラーニング、実践に向けてのテーマ設定と調査、調査結果のまとめ、中間発表、活動の振り返り、発表・まとめの再構築、これからの活動に向けたまとめ。</p>	講義 18時間 演習 12時間
ビジネスコンピューティングセミナー		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①様々なビジネス文書の種類と用途について理解し、作成できる。②Excelを使用して、データ集計やデータ分析を行うことができる。③日商PC検定「データ活用」3級を取得する。※受験料は、5,240円（税込）</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、Excelの基本操作（オートフィル、計算式の入力、並べ替え、表示形式変更）、ピボットテーブルの作成と操作、業務に応じた計算・集計処理（四則演算、関数）、グラフ作成、複合グラフの作成、取引の仕組みと業務の流れ、取引で使用する文書、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）、データ集計（ピボットテーブル、集計機能、関数による集計）、売上集計処理、アンケート集計処理、請求書作成、実践問題演習（日商PC検定 模擬試験問題①）、実践問題演習（日商PC検定 模擬試験問題②）、実践問題演習（日商PC検定 模擬試験問題③）、実践問題演習（日商PC検定 模擬試験問題④）</p>	

ITパスポートセミナーA		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①実社会で使用されている戦略、管理手法、プロジェクトに関する基礎知識を身につける。②ITパスポート試験（国家資格）の、ストラテジ・マネジメント分野について、受験できるレベルの知識を習得する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、ITパスポート試験概要、企業活動、業務分析、財務諸表、知的財産権と関連法規、経営戦略・事業戦略、技術戦略、各種システム、生産管理、e-ビジネス、IoT、組込みシステム、情報システム戦略、ソリューションビジネス、システム活用と評価、企画、調達計画・実施、システム開発技術と開発・受入・運用・保守、マネジメント（スコープ、タイム、人的資源）、マネジメント（コミュニケーション、リスク）、サービスマネジメント、ITIL、サービスデリバリー、サービスサポート、ファシリティマネジメント、システム監査と内部統制。</p>	
ITパスポートセミナーB		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①実社会で必要なITやネットワーク、各種システム、情報セキュリティに関する基礎知識を身につける。②ITパスポート試験（国家資格）の、テクノロジー分野について、受験できるレベルの知識を習得する。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、ITパスポート試験概要、基礎理論、集合と論理演算、データ構造とアルゴリズム、プログラミング、コンピュータシステム、システムの評価指標、ハードウェアとインターフェース、ソフトウェア、データベース、ネットワーク（機器・プロトコル）、ネットワーク（IPアドレス・通信サービス）、情報セキュリティ（脅威とその対策）、情報セキュリティ（暗号方式・デジタル署名）、問題演習①、問題演習②。</p>	
TOEICセミナーLR		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。TOEICのリスニング力を培う。TOEICのリーディング力を培う。TOEICのリスニング力、リーディング力を身に付け、TOEICでより高得点を狙う。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。Unit1 TOEIC training 1 品詞（1）、Unit1 TOEIC training 2 品詞（2）、Unit3 TOEIC training 3 動詞の形（時制）、Unit3 TOEIC training 4 動詞の形（能動態、受動態）、Unit4 TOEIC training 5 動詞の形（分詞）、Unit5 TOEIC training 6 動詞の形（動名詞）、Unit6 TOEIC training 7 動詞の形（不定詞）、Unit7 TOEIC training 8 過去形、Unit9 TOEIC training 9 現在完了、Unit10 TOEIC training 10 前置詞、接続詞、Unit11 TOEIC training 11 代名詞、Unit12 TOEIC training 12 関係代名詞、Unit13 TOEIC training 13 比較、Unit14 TOEIC training 14 可算・不可算名詞、まとめ。</p>	
医療事務セミナー		<p>本科目の授業形態は講義である。授業の到達目標は次の通りである。①医療の仕組みを理解する②国民皆保険制度など我が国の医療制度の特徴を理解する③医療事務職であれば当然理解している知識を理解する。④診療報酬のレセプトや患者接遇の基礎的な課題に解答できる。</p> <p>授業計画は次の内容を含む。ガイダンス、公的医療保険制度の概要など、患者の自己負担について、医療にかかる費用など、医療事務の基礎知識、カルテ、レセプトなど、個人情報保護など、公費負担医療など、療養担当規則、1-6回の振り返り、初診料、再診料など、患者接遇の基本など、入院基本料など、医学管理など、在宅医療など、画像診断など、注射など、まとめ。</p>	
特別講座A		<p>本科目の授業形態は講義である。本講座は、市役所職員等や民間企業就職の際に必要なSPI能力検査レベルの到達を目的とした就職対策講座である。また、SPI能力検査以外の一般教養試験を課す公務員（警察官・消防官・市町村職員等）の試験科目も取り上げ、社会科学・人文科学・自然科学・数的処理・文章理解・資料解釈の6分野13科目の基礎知識の習得も目的とし、各種就職試験に向けて準備を図ることを目標とする。なお、本講座受講後、各就職で実際に実施される試験レベルの習得を目指す学生を対象に「Wスクール公務員実践講座」も設けている。</p>	
特別講座B		<p>本科目の授業形態は講義である。本講座は、将来教員になりたい学生、また教員免許を取得したい学生を対象とする教職一般教養試験対策講座である。受講生各自が志望する都道府県の教員採用試験合格を目標として「教職教養」の知識を習得する。</p> <p>授業の到達目標は、教職教養（教育法規、教育原理・教育史、教育心理）の基本4科目の基礎知識を覚え、教職教養の理解を深めることである。また、講義内で取り扱う問題を解き、解法テクニックなどをマスターすることである。</p>	
進路研究演習1	○	<p>本科目の授業形態は演習である。1年次では大学への円滑な移行とキャリア計画に基づいた大学生活の設計を行うため、まず導入教育と自己理解促進プログラムを実施する。続いて啓発的なプログラム（講話・フィールドワーク等）を通して社会観・職業観の醸成を図るとともに、研究発表やグループワーク等によりコミュニケーションやプレゼンテーションのための基礎的能力の獲得を目指す。また、フィールドワーク等の学外活動を通じて協調性や学生相互及び教員との人間関係構築を図る。</p>	

演習	進路研究演習2	○	本科目の授業形態は演習である。2年次では1年次に獲得した知識・情報・意欲・態度そして能力の深化を図ると同時に、ライフプランに基づいたキャリアプランの設計を目指す。パネルディスカッションや企業研究を通して社会観・職業観の醸成を図るとともに、自己分析や各種検査を利用してキャリアプランについての考えを深める。 また1年次に引き続き取り組む研究発表やグループディスカッション等により、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上を目指す。	
	進路研究演習3	○	本科目の授業形態は演習である。3年次では職業能力の向上とキャリアプランに基づいた職業選択を目指す。各種検査等を参考に自己理解を深め、社会・職業・企業情報を収集し、職業適性の明確化と具体化を図ることにより、就職活動への積極的取り組みを促す。また、ガイダンス及びクラス単位での指導を通して具体的な就職活動の指導を行うことで、希望する進路の実現を支援する。 具体的な目標としては、①社会観・職業観を身につける②キャリア設計能力を習得する③職業能力（基礎能力）を習得することである。	
	進路研究演習4	○	本科目の授業形態は演習である。4年次ではキャリアプランに沿った希望進路の実現を図り、今後のキャリアについての考えを深め、実社会で迎えるであろう諸課題に対する心構えとスキルを養う。テキストの講読を中心に、各章の主題に沿って議論を行い、他者の意見を参考にしながら将来のキャリアや求められるスキルについて考えると同時に、心の準備もすることで、職業生活への円滑な移行に備える。またセミナー等を通じ実社会で求められるソーシャルスキルを養うことで、職場への定着を促進する。	
	専門演習Ⅰ	○	本科目の授業形態は演習である。専門演習Ⅰでは、経営学、マーケティング、会計学、金融、ミクロ経済学、行動経済学、データサイエンス、情報処理など多岐にわたるテーマについて、担当教員の指導の下で基礎的な内容を深く学び、研究能力を向上させる。また、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて、批判的思考力やコミュニケーション能力を養う。少人数での演習によって、教員からの個別指導を受けながら、自律的な学習習慣を身につける。これらにより、地域社会のみならず、国内外の広いフィールドで中核的な人材として活躍するための専門力、読解力、思考力、判断力の向上を促し、時代変革に対応できる柔軟性を備え、現代社会における課題を発見し、解決・改善に向けて主体的に対応する力を養成する。	
	専門演習Ⅱ	○	専門演習Ⅱでは、専門演習Ⅰで得た知見を基に、経営学、マーケティング、会計学、金融、経済学、行動経済学、データサイエンス、情報処理など多岐にわたるテーマについて、担当教員の指導の下でより発展的な内容を深く学び、研究能力をさらに向上させる。また、グループワークやプレゼンテーションを通じて批判的思考力やコミュニケーション能力を養成する。少人数での演習によって、教員からの個別指導を受けながら、自律的な学習習慣を身につける。これらにより、地域社会のみならず、国内外の広いフィールドで中核的な人材として活躍するための専門力、読解力、思考力、判断力の向上を促し、時代変革に対応できる柔軟性を備え、現代社会における課題を発見し、解決・改善に向けて主体的に対応する力を養成する。	
	専門演習Ⅲ	○	本科目の授業形態は演習である。専門演習Ⅲでは、専門演習Ⅰ・Ⅱでの研究や大学での学びを通じて、専門的な研究発表となる、総集大成としての卒業論文を作成する。卒業論文の作成では、最も関心のある問題の提起やテーマの設定を行うことで問題発見力が養われる。また、論点に関する研究や資料収集などで問題解決力、資料の読解力を習得し、結論をまとめて卒業論文の『学生論文集』への掲載や学内外において発表するコミュニケーション能力や、論理的な文章の組み立てを学ぶ。大学で養成した力の総集大成となる卒業論文を作成することで、自身の学習してきた内容をまとめ、実社会に活かすべしを身につける。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。